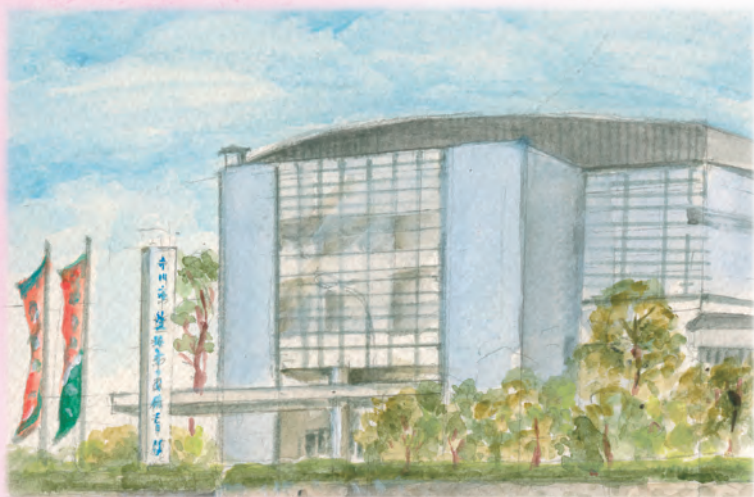


第6章

「文化都市・市川」を掲げて



相撲の幟がなびく塩浜市民体育館

一九六三（昭和三八）年に発せられた市川市の安全都市宣言のなかに、以下の文言がある。

市川市は文化都市であると自ら誇っているのであるが、産業の発展によって、これが犠牲になることは極力防がなければならぬのである。文化都市としての誇りを守ることが、市民の生命尊重となり、産業文化の伸展となる理念を深く認識して、本市における各安全組織の総合的連携をはかり、市民生活のあらゆる面において市民の安全意識の高揚をはかると共に安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに市川市を安全都市とすることを宣言する。

この宣言にもあるように、市川市が「文化都市」を標榜していることは、市の刊行物・イベントなどでよく知られているところである。文字のない時代からの歴史を持ち、かつてはまつりごとを司る地でもあった市川市域は、江戸時代には既に手頃な行楽地としても名を馳せていた。江戸時代の地誌で、当時のガイドブックのような役割を果たした『江戸名所図会』にも市川市域は江戸郊外の遊山地として紹介されている。

近代になり、市川市は、自らを「文化都市」として発信する

ようになる。他の一例を挙げてみよう。『市勢概要 昭和五〇年』の教育の項目では、

年次計画に基づいて、文化都市市川にふさわしい教育環境を整備すべく、新設校の開校、既設校舎の増改築など、義務教育諸学校の整備拡充に努めると同時に、公立幼稚園の増設等をはかり、学校運営の充実を期している。

と、市川市に文化都市ということばを冠している。

第一章でみてきたように、市川市はいくつかの都市宣言を発してきた。「安全都市宣言」（一九六三年）、「核兵器廃絶平和都市宣言」（一九八四年）、「クリーン・グリーン都市宣言」（一九九四年）、「WHO憲章の精神を尊重した『健康都市いちかわ』宣言」（二〇〇四年）であるが、「文化都市・市川」は都市宣言ではなく、潜在的に標榜されているものである。しかし、いつから市川市が「文化都市」であったかを定めること自体はあまり意義のないことであろう。本章では文化を、学問・芸術・宗教・道徳など、主として精神的活動から生み出されたもの（三省堂『大辞林』）という視点でとらえて、市川市に暮らす市民の文化に関わる姿と向きあってみよう。

〔6-1-1〕市川の市立学校(2017年)

幼稚園	26	百合台小学校
信篤幼稚園	27	富美浜小学校
大洲幼稚園	28	柏井小学校
南行徳幼稚園	29	大洲小学校
百合台幼稚園	30	幸小学校
新浜幼稚園	31	新井小学校
塩焼幼稚園	32	南新浜小学校
小学校	33	大野小学校
1 市川小学校	34	塩焼小学校
2 真間小学校	35	稲越小学校
3 中山小学校	37	大和田小学校
4 八幡小学校	38	福栄小学校
5 国分小学校	39	妙典小学校
6 大柏小学校		中学校
7 宮田小学校	1	第一中学校
8 富貴島小学校	2	第二中学校
9 若宮小学校	3	第三中学校
10 国府台小学校	4	第四中学校
11 平田小学校	5	第五中学校
12 鬼高小学校	6	第六中学校
13 菅野小学校	7	第七中学校
14 行徳小学校	8	第八中学校
15 信篤小学校	9	下貝塚中学校
16 稲荷木小学校	10	高谷中学校
17 南行徳小学校	11	福栄中学校
18 鶴指小学校	12	東国分中学校
19 宮久保小学校	13	大洲中学校
20 二俣小学校	15	南行徳中学校
21 中国分小学校	16	妙典中学校
22 曾谷小学校		義務教育学校
23 大町小学校	1	塩浜学園
24 北方小学校		特別支援学校
25 新浜小学校	1	須和田の丘支援学校

注)「36 塩浜小学校」「14 塩浜中学校」は2015年に塩浜学園に改組
(市川市ホームページ「市川市立幼稚園のページ」「市立小中学校一覧」より作成)

第1節 特色ある教育機関

1 市川市域の学校開設の流れ

最初に、「文化都市市川にふさわしい教育環境を整備」(『市勢要覧 昭和五〇年』)する、とその運営姿勢を述べている教育についてみよう。

一八七一年(明治四)年に文部省が設置され、翌一八七二年には、太政官より学制が発せられた。全国を学区に分け、学区ごとに大学校・中学校・小学校を設置し、すべての国民が教育を受ける国民皆学をめざしたのである。日本最古の小学校としてその校舎が重要文化財に登録されている長野県松本市の旧開智学校や、同じく校舎が建造物として重要文化財に登録されている静岡県・松崎町の旧岩科学校は、学制が発せられた翌年の一八七三年に開校している。

市川市立小学校の開校状況をみると(第1章1-3-16参照)、旧開智学校や旧岩科学校と同じ一八七三年に開校して

いる小学校が、八幡小学校・国分小学校・大柏小学校・行徳小学校・南行徳小学校の五校あり、市川小学校が翌年の一八七四年の開校と続いている。現在の市川市域全域で比較的早い時期から教育の近代化に向かったの動きが始まっていたといえよう。しかし、その後、戦後の教育基本法（昭和二十二年法律第二五号）が制定されるまでに開校した小学校は、わずかに三校のみで、以降、年代ごとに、昭和二〇年代は五校、三〇年代は三校、四〇年代は七校、五〇年代は一三校、六〇年から二〇一七（平成二九）年までで二校の開校となっている。市川市の市立小学校においては、昭和五〇年代が開校のピークであったことがわかる。

6-1-1は、二〇一七段階階の市川市立の学校を掲げたものである。市川市立の学校は、幼稚園が六園、小学校が三九校、中学校が一六校、義務教育学校（小・中）が一校、特別支援学校（小・中・高）が一校であり、人口規模からみて標準的な校数を保っているようである。また、市川市域には、大学が三校、短期大学が二校あり、短期大学の所在地は東菅野と二俣であるが、大学三校の所在地はすべて国府台となっている。これには、近代以降、特別な街として時代を過ごした国府台という地域に関係がありそうである。

国府台は時期によって置かれていた施設は異なるが、一八八

五（明治一八）年以降、陸軍教導団や野砲兵第二旅団など、つねに陸軍が配置されており、軍隊の町や軍郷とも呼ばれた。そのような地域は、周辺に影響を及ぼすことが多く、それは産業分野だけにとどまらない。第四章で述べられているように、国府台地域は、陸軍教導団設置によって多くの住民を擁す地域に変貌し、また教導団廃止後の野砲兵第二旅団になって以降は、将校たちの子女が学ぶ教育機関も必要となり、戦前から国府台やその近傍には数校の学校が開校することになったのである。

2 私立学校の発展

一九四七（昭和二二）年の教育基本法、学校基本法（昭和二二年法律第二六号）の制定によって、日本の学校制度は六・三・三・四制となり、現在の大学での専門課程に属さない一般教養に相当する旧制高等学校とは異なる新制の高等学校が生まれた。そして、法制定以前の旧制中学校や高等女学校の多くは新制の高等学校として新たに開校を迎えた。

千葉県の私立高等学校は、6-1-2にあるように二〇一七（平成二九）年現在、五九校を数えるが、そのうち新制の高等学校が誕生した一九四八（昭和二三）年に開校した高等学校は一三校である。その最初期に開校した一三校のなかで市川市域

〔6-1-2〕 千葉県の私立高等学校（2017年）

学校名	所在地	設置年	学校名	所在地	設置年
敬愛大学八日市場高等学校	匝瑳市	1948	横芝敬愛高等学校	横芝光町	1975
成田高等学校	成田市	1948	東海大学付属浦安高等学校	浦安市	1975
昭和学院高等学校	市川市	1948	拓殖大学紅陵高等学校	木更津市	1977
千葉敬愛高等学校	四街道市	1948	不二女子高等学校	市川市	1977
千葉経済大学附属高等学校	千葉市	1948	八千代松陰高等学校	八千代市	1977
市川高等学校	市川市	1948	暁星国際高等学校	木更津市	1978
東葉高等学校	船橋市	1948	東京学館高等学校	酒々井町	1979
茂原北陵高等学校	茂原市	1948	植草学園大学附属高等学校	千葉市	1979
千葉県安房西高等学校	館山市	1948	千葉誠心高等学校	千葉市	1979
文理開成高等学校	鴨川市	1948	愛国学園大学附属四街道高等学校	四街道市	1979
千葉黎明高等学校	八街市	1948	芝浦工業大学柏高等学校	柏市	1980
和洋国府台女子高等学校	市川市	1948	東京学館浦安高等学校	浦安市	1981
麗澤高等学校	柏市	1948	志学館高等部	木更津市	1982
千葉英和高等学校	八千代市	1949	渋谷教育学園幕張高等学校	千葉市	1983
千葉萌陽高等学校	香取市	1949	昭和学院秀英高等学校	千葉市	1983
日出学園高等学校	市川市	1950	市原中央高等学校	市原市	1983
千葉明德高等学校	千葉市	1950	聖徳大学附属女子高等学校	松戸市	1983
千葉商科大学付属高等学校	市川市	1951	秀明八千代高等学校	八千代市	1984
千葉学芸高等学校	東金市	1951	流通経済大学附属柏高等学校	柏市	1985
国府台女子学院高等部	市川市	1951	西武台千葉高等学校	野田市	1986
東邦大学付属東邦高等学校	習志野市	1952	東京学館船橋高等学校	船橋市	1986
敬愛学園高等学校	千葉市	1953	翔凛高等学校	君津市	1992
専修大学松戸高等学校	松戸市	1959	木更津総合高等学校	木更津市	2003
日本体育大学柏高等学校	柏市	1960	桜林高等学校	千葉市	2001
日本大学習志野高等学校	船橋市	1966	明聖高等学校	千葉市	2000
我孫子二階堂高等学校	我孫子市	1967	わせがく高等学校	多古町	2003
千葉日本大学第一高等学校	船橋市	1968	中山学園高等学校	船橋市	2004
二松学舎大学付属柏高等学校	柏市	1968	あずさ第一高等学校	野田市	2005
中央学院高等学校	我孫子市	1970	中央国際高等学校	御宿町	2013
東海大学付属市原望洋高等学校	市原市	1973			

(千葉県ホームページ「私立高等学校名簿」より作成)

〔6-1-3〕 千葉県の私立中学校一覧（2017年）

学校名	所在地	設置年
国府台女子学院中学部	市川市	1947
日出学園中学校	市川市	1947
昭和学院中学校	市川市	1947
市川中学校	市川市	1947
和洋国府台女子中学校	市川市	1949
東邦大学附属東邦中学校	習志野市	1961
成田高等学校附属中学校	成田市	1966
千葉日本大学第一中学校	船橋市	1969
暁星国際中学校	木更津市	1981
秀明大学学校教師学部附属 秀明八千代中学校	八千代市	1981
八千代松陰中学校	八千代市	1982
聖徳大学附属女子中学校	松戸市	1983
昭和学院秀英中学校	千葉市	1985
志学館中等部	木更津市	1985
渋谷教育学園幕張中学校	千葉市	1986
東海大学附属浦安高等学校 中等部	浦安市	1988
翔凨中学校	君津市	1992
西武台千葉中学校	野田市	1992
東京学館浦安中学校	浦安市	1994
芝浦工業大学柏中学校	柏市	1999
専修大学松戸中学校	松戸市	2000
麗澤中学校	柏市	2002
千葉明德中学校	千葉市	2011
二松学舎大学附属柏中学校	柏市	2011

（千葉県ホームページ「私立中学校名簿」より作成）

の私立高等学校は、昭和学院高等学校、市川高等学校、和洋国府台女子高等学校と三校を数える。昭和二〇年代の終わりまで範囲を広げると、一九五〇年に日出学園高等学校が、翌一九五一年に千葉商科大学付属高等学校と国府台女子学院高等部が開校し、千葉県下二二校のうち市川市域で六校を数えている。昭和二〇年代までの近隣地域の私立高等学校の開校状況をみてみると、船橋市域が二校、県庁所在地である千葉市域が三校となっており、それと比較しても、市川市域の私立高等学校が、かなり早い段階で開校していたことがわかる。

次に私立中学校は、6-1-13にあるように、二〇一七年現在では二四校あり、うち市川市域は五校、隣接都市では船橋市域が一校、松戸市域が二校、浦安市域が二校、そして、千葉市域が三校である。ここからみられる市川市域の私立中学校の特徴は、やはり創立時期にある。市川市域の五校は、国府台女子学院中学部・日出学園中学校・昭和学院中学校・市川中学校がともに一九四七年の開校であり、和洋国府台女子中学校も一九四九年と市域すべての私立中学校が戦後まもなく開校している。市川市域の私立中学校がこのように早い時期から開校している

のは、戦前にすでに、その前身校があるなど、なんらかの学校母体を有していたことと関係しているが、千葉県内において、昭和二〇年代に開校している私立中学校は、この五校のみであり、言い換えれば昭和二〇年代には千葉県には市川市域にしか私立中学校はなかったということになる。また、市川市域の五校以降の開校となる県内六番目の私立中学校は習志野市にある東邦大学附属東邦中学校であ

〔6-1-4〕千葉県私立小学校（2017年）

学校名	所在地	設置年
日出学園小学校	市川市	1934
昭和学院小学校	市川市	1949
三育学院大学付属 光風台三育小学校	市原市	1950
国府台女子学院小学部	市川市	1959
成田高等学校附属小学校	成田市	1973
聖徳大学附属小学校	松戸市	1986
千葉日本大学第一小学校	船橋市	1986
暁星国際小学校	木更津市	1995
幕張インターナショナル スクール小学校	千葉市	2009
暁星国際流山小学校	流山市	2016

（千葉県ホームページ「私立小学校名簿」より作成）

るが、同校は一九六一年開校で、和洋国府台女子中学校の開校から実に一二年の時が経過しており、市川市域単独体制は岩戸景気の終盤まで続いていたことになる。

次に私立小学校をみてみよう。6-1-4にあるように、二〇一七年現在の千葉県における私立小学校は一〇校であるが、うち、日出学園小学校・昭和学院小学校・国府台女子学院小学部と三校が市川市域にあり、残る七校は市原市・成田市・松戸市・船橋市・木更津市・千葉市・流山市の各市域にそれぞれ一校である。また、千葉県で最も早く開校した私立小学校は、一

九三四年に設置認可された市川市域の日出学園である。

ここまでみてきたように、これら私立の高等学校・中学校・小学校の沿革から、市川市域は近代早期から教育機関が発達していたという特徴を見い出すことができ、この地を教育先進地であると考えることができるだろう。

3 企業内の定時制高等学校

市川市が教育先進地であることを側面から裏付けられる事例がある。それは、戦後の高等学校定時制課程の教育においてである。一九五三（昭和二八）年四月に日本毛織中山工場に企業内分教室として定時制教育が開かれ、入学試験に合格した七八名の入学が許可された。千葉県立船橋高等学校定時制課程日毛分教室は、教員の出張授業の手当を日本毛織中山工場がPTA会費として負担するなどして運営されたという。

6-1-5は、手織毛糸、織糸、各種制服・学生服生地などを製造していた日本毛織中山工場の就労風景である。この時代の繊維会社は、工場の稼働時間が長く、従業員は交替制で就労していた。また、当時、日本毛織中山工場は人気の企業で、そこで働く従業員には、応募者が十倍にもなる高い競争率を勝ち抜いて地方から上京してきた優秀な若者が多かった。かれらは、



〔6-1-5〕日本毛織中山工場就労風景
(岩瀬徹氏蔵)

もともと進学の希望を強く持っていたが家庭の事情で就職したという経緯もあり、勉強ができる機会を求めている。

日本毛織中山工場としては、進学を希望する者の多くが会社の寄宿舎に住んでいた女子社員であったことから、企業内分教室が通学の安全性と交替制勤務による出席の困難さを回避できることがメリットだった。また、労働組合は、組合員の向学心を放置した結果、一九四七年に発生した串田事件の教訓から、かれらが政治活動や社会運動に傾倒していつてしまうことを避けるため、高等学校への進学を歓迎した。このような背景があり、日毛分教室は誕生したのである。

日本毛織中山工場のような条件をもつ企業は、日本各地に多数あったが、全国に先駆けてこのような学びの舎が生まれたことも市川を文教の地と考える根拠となり得るであろう。

4 特別支援学校

市川市には、筑波大学附属聴覚特別支援学校、千葉県立特別支援学校市川大野高等学園、千葉県立市川特別支援学校、市川市立須和田の丘支援学校、須和田の丘支援学校稲越校舎の四校（五校舎）の国公立の特別支援学校がある。

国府台にある筑波大学附属聴覚特別支援学校は、戦後の一九



〔6-1-6〕 須和田の丘支援学校須和田校舎
(市川市立須和田の丘支援学校蔵)

四六（昭和二一）年に東京から「官立東京聾啞学校^{ろうあ}」として移転し、その後、国立聾教育学校附属聾学校と改称、そして、東京教育大学の附属となったが、現在は同校を母体として発足した筑波大学の附属となっている。

市川大野高等学園は、千葉県の特例支援学校において児童生徒数の増加が著しく、それに伴う教室不足や施設の狭隘化^{きょうあい}問題を解消することを目的に設立された。千葉県が二〇一一（平成二三）年三月に策定した「県立特例支援学校整備計画」に基づいて、知的障がいのある高等部生徒の社会的・職業的自立を図ることを目的として、二〇一二年四月に開校した学校である。園芸技術科（園芸・農業）、工業技術科（木工・窯業）、生活デザイン科（ソーイングデザイン・染織デザイン）、流通サービス科（フードサービス・メンテナンスサービス・流通）の四学科九コースを開設しており、ものづくりやサービスを学び、企業への就労を目指している。また、市川大野高等学園という学校名は一般公募を行って決まったもので、地域との連携を深め、地域密着型の学校になってほしいという願いが込められているという。

もうひとつの県立の特例支援学校として、県立市川特別支援学校がある。一九八四（昭和五九）年、原木に開校した千葉県立市川養護学校がその前身である。二〇〇七年の法改正により、

特別支援教育が学校教育法に位置づけられたことから、同年、現在の学校名に改称された。

6-1-6は、千葉県とは別に市川市が設置した特別支援学校である須和田の丘支援学校で、一九五七年に開校した市川市立養護学校がその前身であり、六〇余年の歴史を有している。一九七二年には高等部が、翌一九七三年には小学部が設置され、段階を踏みながら整備が進められていった。前述の学校教育法が改正された二〇〇七年に学校名を市川市立特別支援学校に改称したが、翌二〇〇八年に現在の市川市立須和田の丘支援学校に変更し、同年、稲越小学校内に稲越校舎を設置し、小学部を移転させている。

須和田の丘支援学校には、その卒業生とともに運営を続けてきた「日曜大学」（旧・青年学級）という活動がある。これは、学校を卒業した後も、学校の友だちや社会と交流する場をもつために行っている定期活動である。学校創立六〇周年を迎えた二〇一七年に、この日曜大学の活動が、障がい者の生涯学習を普及・発展させた団体として、文部科学大臣表彰を受賞している。

国府台の地に開校した筑波大学附属聴覚特別支援学校は、日本国内唯一の国立聾学校であり、また県立特別支援学校市川大野高等学園は、県内二校目の高等特別支援学校として設置され

るなど、多様な教育機関が早期に市川市に設置されるのには、前述したように市川市が教育先進地ともいえるべき歴史をもった地域であったことに起因していると考えられる。また、須和田の丘支援学校が行っている日曜大学のような取り組みは価値あるものであるが、さらに特筆すべきことは、それが四〇年以上の長期にわたって継続していることであろう。そこに感じる優しく、強い力は、今も市川の文教活動が志高く展開していることを示しているのである。



〔6-2-2〕市立図書館（上は鏡正明氏蔵）

冊の図書が保管されていたという。

しかし、6-2-1の『市川市学事要覧』に掲載されている「市川市立図書館状況」の表からは、一九二二（大正一一）年に市川尋常高等小学校内に図書館が設置され市川図書館という名称であったこと、一九三九（昭和一四）年度は、ほぼ毎日開館し、年間に一八二〇人の閲覧者があったことがわかる。これ以上の詳細な事実是不明ながらも、この史料は戦前にも市川に市立図書館が存在していたことを示している。

そして、一九五〇年九月に市川小学校の二教室を使い、三名の職員体制で新たに開設したのが戦後の市川市立図書館である。それは、一三九六冊の蔵書からの出発だった。一九五三年には、さらに一教室を増やし、辞書、事典、叢書、全集等基本図書の充実整備をはかり、同年十一月には館外貸出も開始した。しかし、市民からは、もっと便利な設備のよい図書館を設立してほしいという要望が絶えず、一九五六年度、ついに新築予算案が計上され、新図書館開設に向けての運びとなったのである。

一九五七年、八幡の葛飾八幡宮境内に市立図書館が竣工し、五月に開館した。二階には教育委員会と市役所の部課も同居していたが、一階と二階に書庫があり、一階には四〇坪の閲覧室、ほかに児童閲覧室や新聞雑誌閲覧室も設置された。当時の市立図書館の職員は館長以下六名で構成されていたという。

二年後の一九五九年には市川市役所の新庁舎（建て直しのため、二〇一七年解体）完成に伴い、二階に同居していた教育委員会と市役所の部課が移転し、図書館独自の建物となった。一九六二年には夜間開館も始まり、職員も一七名と徐々に体制が整っていった。61212は、建てられた市川市立図書館と、初めての独立図書館のなかで多くの人びとが利用している様子がわかる写真である。

新しく開館した市立図書館が精力的に収集を図っていたものに郷土資料があった。図書館が発行する『まつかぜ』第四号（一九五七年）には、郷土資料として収集すべき三つの柱が示されている。

一つは広い意味での市川に関係あるもの。この中には市川を舞台とした小説なども入りたいと思います。他の一つは市川市に在住していらっしゃる方の著作。市川市内のどこかに勤務していらっしゃる方もふくめて……。これはずいぶん沢山あるようです。最後に市川市内にある官公庁、会社、工場等のパンフレットや絵葉書あるいは生産工程や製品など。私たちは案外、郷土市川をいろいろの面で見落しています。知らないと言ってもいいすぎでないかもわかりません。

市立図書館では、こうした郷土資料の収集に市民の協力をもっているが、この時代に一般書籍だけでなく、様々な事業所のパンフレットにも資料としての価値を見出していることは注目に値する。

また、市立図書館を子どもたちだけではなく、お母さんたちにも積極的に利用してほしい、という思いから、一九五八年に「お母さんの本棚」というコーナーが設けられている。開設準備段階では、利用者に意見を求め、お母さんの本棚には、

読書指導とか子どもの読みものに関するもの、児童心理に関するものや人生訓、女性の歴史や伝記など、法律問題婦人問題から教育風俗礼儀作法といったもの、医学の本、家事全般。ここが主体になると思います。和裁洋裁から手芸、お化粧、お料理、すまいや台所の設備、子どもの病気や家庭衛生、育児など。更に園芸や花卉栽培、お人形のつくり方から音楽やお茶お花、子どもの言葉や綴方。最後にお母さん方に読んでいただきたい小説や詩児童文学など、大抵こういうものの（『まつかぜ』第九号）

などの書籍を並べる方向で準備を進めた。開設されたお母さんの本棚には、四つの座席が用意され、図書館がどんなに混みあっ

ていても、この座席は女性のために確保されていたようである。

また、市川市立図書館では、ほかの図書館にはない工夫もされていた。全国の図書館で共通に使用されている分類である日本十進分類法では、本を探しづらいのではないか、という考えから、主婦が利用しやすい群に分けたのである。それが、「広く女性としての立場から、教養の問題」、主婦としての「家事の問題」、母としての「子どもの問題」、余暇に読むための「文学」(『まつかぜ』第十号)でさらに六四のサブジェクト(件名または主題)に分けたという。この方法は当時、ほかに例がないことであったが、図書館はさらに利用者に意見を求め改善を図っている。

市立図書館がどのような図書館を目指していたかについては、『まつかぜ』第一七号(一九六〇年)に記された「私どもは『利用者のための図書館』という意識に徹したい。これ以外に市民の皆さんの恩義にむくいる方法はなさそうである。」という図書館長のことばに示されている。こうした利用者目線での運営をしていたことが、市民の図書館利用につながり、市立図書館には、いくつかの読書会のサークルも誕生していた。一九六〇年十一月には、読書会同士の連絡機関である市川市読書会連絡協議会が組織された。千葉県には千葉県読書会連絡協議会がすでに組織されていたが、市レベルでは市川市が県下で初

めての組織で、一九六一年二月段階で市川市読書会連絡協議会には一七団体四四〇名が参加していた。

市川市読書会連絡協議会が組織された後、お母さんのための読書会をつくってほしいという市民の要望に応えるかたちで、市立図書館が市民とともに立ち上げたのが、「うずしお読書会」である。うずしお読書会は、一九六一年一月三十一日に発足し、同年中に市川市読書会連絡協議会に加盟し、月二回の活動を始めた。六〇年近く時を経た現在も月一回、その活動が続いている読書会である。うずしお読書会の活動は、世の注目を集めたようである。発足の翌年一九六二年四月二十二日の読売新聞の取材をはじめとして、その活動はたびたびメディアにも紹介されている。

61213は、会が発足した一九六一年と二〇〇一年の読書会テーマを掲げたものである。一九六一年には、純文学や文学史の王道といえる小説が多かったが、二〇〇一年には、時代小説もあれば、絵本もあり、またノンフィクションもあるというように幅広いジャンルへと変化していることがわかる。

その後の市川市の図書館開設状況をみてみよう。地方自治法の改正を受けて一九六四年、市川市立図書館設置条例が公布され、同年、本行徳にある徳願寺の境内に旧行徳中学校の校舎を利用して、行徳分館が開館した。現在の行徳図書館は、この行

〔6-2-3〕うずしお読書会テーマ一覧表

1961年		2001年	
書籍	著者	書籍	著者
男性飼育法抄	三宅艶子	100万回生きたねこ	佐野洋子
こころ	夏目漱石	葉っぱのフレディ	レオ・ブスカーリア
天平の薨	井上靖	壬生義士伝（上・下）	浅田次郎
放浪記	林芙美子	私のギリシャ神話	阿刀田高
忍ぶ川	三浦哲郎	光の海	津村節子
舞姫・雁	森鷗外	読むことは生きること	柳田邦男
播州平野	宮本百合子	評決	バリー・リード
浮雲	二葉亭四迷	学・経・年不問	城山三郎
とべたら本こ	山中恒	わが人生の時の時	石原慎太郎
金色夜叉	尾崎紅葉	イワンの馬鹿	トルストイ
杏っ子	室生犀星	良夫とかな子	今村葦子
花散里	円地文子	もの食う人びと	辺見庸
五重の塔	幸田露伴	後日の話	河野多恵子
たけくらべ	樋口一葉	モンテフェルモの丘の家	ナタリア・キンズブルグ
ドリトル先生アフリカ行き	ロフティング	ラフカティオ・ハーンの耳	西成彦
ゲンと不動明王	宮口しずえ	青鞥の時代	堀場清子
キューボラのある街	早船千代	柳生一族	松本清張
婦系図	泉鏡花	夜の記憶	トマス・H・クック
男性料理法	三宅艶子	そうだったのか！現代史	池上彰
		恩讐の彼方に	菊池寛
		脳を鍛える	立花隆
		恥辱	J・M・クッツェー
		ローマ人の物語Ⅸ	塩野七生
		ネギを植えた人	金素雲
		ワインズバーグ・オハイオ	シャーウッド・アンダソン

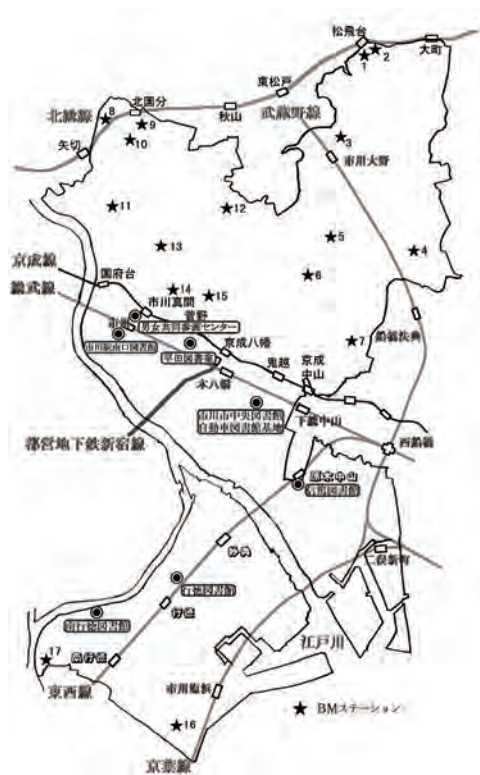
（『テーマ一覧表 うずしお1000回記念誌別冊』より作成）

徳分館を前身としている。行徳分館は開館の翌年には、新設の本行徳公民館内に移転するが、名称が行徳図書館に変わったのは一九七九年である。さらに一九八一年には行徳支所の四・五階に移転とめまぐるしい動きをしている。そして、一九八九（平成元）年、行徳支所の隣に、独立館として五階建ての行徳図書館が開館し現在に至っている。

この間にも、市域には、信篤図書館（一九七九年）、南行徳図書館（一九八三年）、平田図書室（一九八七年）が開館している。

一九八八年十月には、中央図書館等建設準備室が仮設置され、翌一九八九年七月には同準備室が管理部所属として設置された。新たな図書館建設に向かって本格的に市が始動したのである。

一九九四年十月、葛飾八幡宮境内の市立図書館は、新たな図書館とのバトンタッチのため閉館し、十一月一日、お母さんの本棚の流れをくむこととしようかんも含めた市川市中央図書館が複合施設である市川生涯学習センター（メディアパーク市川）一階に開館した。その後、二〇〇九年には、市川で最も新しい図書館として、市川駅南口図書



〔6-2-4〕 自動車図書館みどり号とステーションマップ



館が開館している。

図書館に来訪することが容易ではない地域や市民のために、中央図書館地階を基地として、市域を巡回する自動車図書館・みどり号がサービスの始めたのは一九七五年に遡るが、現在も北部地域を中心にみどり色の自動車図書館が書籍を載せ市域を走っている。二〇一八年度は、ステーション数は一七か所あり、一か所に三〇分から五〇分程度滞在している。61214

図書館・図書室は、図書や雑誌、CDやDVDなどの書籍や視聴覚資料を提供することや市民の質問・問合せに答えるレファレンスなどが重要なサービスだが、図書館はそれらの閲覧や貸与以外にも様々な活動を行ってきた。『市勢概要 昭和五〇年版』によると、図書館行事として、こども会(月一回)、

文化講演会(年一回)のほか、図書整理講習会(年一回)・修理製本講習会(年一回)・植物や昆虫などの名前を調べる会(年一回)という講習会が実施されている。また、図書館は前述の市川市読書会連絡協議会を通じて読書会の推進を図っていた。同資料から、市川市読書会連絡協議会の行事をみると、

古典芸能をさく会	年一回	一回実施
文学散歩	年三回	三回実施
合同読書会、その他	年七回	七回実施

点字講習会、朗読講習会 月二回 二四回実施

とあり、これらの行事は協議会と図書館との共催という形で行われ、開催回数は合計三五回にも及び、活発な活動が行われていたことが推察できる。その後、図書館行事には、「各読書会における読書活動、読書グループの育成」（『市勢概要 昭和五五年版』）という項目が、共催行事には「子どもとおかあさんの読書会」（同上）なども加わり、さらに読書の啓蒙に力を入れていった様子がわかるのである。

2 登録博物館と様々な博物館（ミュージアム）

次に博物館をみてみよう。博物館には大きく分けて三種類の施設がある。文部科学省による博物館概要の説明によれば、博物館法で定めた事業を行う目的の機関である登録博物館、博物館の事業に類する事業を行う施設である博物館相当施設、そして、博物館と同種の事業を行う施設である博物館類似施設である。二〇一五（平成二七）年十月現在で、全国に登録博物館は八九五館、博物館相当施設は三六一館、博物館類似施設は四四三四館で合計五六九〇の博物館が運営されている。

61215にあるように市川市には博物館法上の博物館であ

る登録博物館が四館ある。一館は千葉県立、残る三館は市川市立である。千葉県内には登録博物館が二〇一六年三月七日現在で三八館あるが、単純計算で市川市は千葉県内の登録博物館の一割強の博物館を有していることになる。県庁所在地である千葉市と比較すると、この数値が実に高いものだということがわかる。ここでは、本巻が扱う近現代史の拠点となる市立市川歴史博物館を中心にみていきたい。

現在、三館体制の市立の博物館にも前史がある。始まりは、一九七二（昭和四七）年に開館した市立市川博物館で、同館の年報にその設立の経緯が記されている。

市制三〇周年記念事業として始めた、市川市史の編さんに当り、貴重な資料が多数収集されたことにより、その完全保管の必要から博物館設置の検討を始めました。

さらには、千葉県においても、昭和四三年度には、県立博物館設置構想が立てられていたのです。その構想によると、人口増加が著しく、しかも重要な遺跡が多く分布している西下総地区に考古資料を中心とした専門館を設置し、最終的に設立する県立中央博物館の歴史部門と、ダブルアレンジメントの関係におくということでありました。つまり県立博物分館を設置するということであります。

〔6-2-5〕千葉県内の登録博物館（2016年）

名称	所在地	登録年
野田市郷土博物館	野田市	1960
歴史の里芝山ミュージアム	山武郡芝山町	1963
千葉市立加曾利貝塚博物館	千葉市（若葉区）	1968
木更津市郷土博物館金のすず	木更津市	1971
成田山霊光館	成田市	1971
船橋市郷土資料館	船橋市	1973
市立市川考古博物館※	市川市	1975
千葉県立美術館	千葉市（中央区）	1976
流山市立博物館	流山市	1979
君津市立久留里城址資料館	君津市	1981
袖ヶ浦市郷土博物館	袖ヶ浦市	1983
千葉市立郷土博物館	千葉市（中央区）	1983
市立市川歴史博物館	市川市	1983
塚本美術館	佐倉市	1984
館山市立博物館	館山市	1985
千葉県立房総のむら	印旛郡栄町・成田市	1987
千葉県立中央博物館	千葉市（中央区）	1990
千葉県立中央博物館大利根分館	香取市	1980
千葉県立中央博物館大多喜城分館	夷隅郡大多喜町	1976
千葉県立中央博物館分館海の博物館	勝浦市	1999
航空科学博物館	山武郡芝山町	1990
市立市川自然博物館	市川市	1991
我孫子市鳥の博物館	我孫子市	1991
芝山町立芝山古墳・はにわ博物館	山武郡芝山町	1991
成田山書道美術館	成田市	1993
松戸市戸定歴史館	松戸市	1994
松戸市立博物館	松戸市	1995
財団法人高梨本家上花輪歴史館	野田市	1995
千葉県立現代産業科学館	市川市	1995
茂原市立美術館・郷土資料館	茂原市	1995
千葉県立関宿城博物館	野田市	1997
佐倉市立美術館	佐倉市	1997
伊能忠敬記念館	香取市	2000
八千代市立郷土博物館	八千代市	2000
船橋市飛ノ台史跡公園博物館	船橋市	2002
浦安市郷土博物館	浦安市	2003
茂木本家美術館	野田市	2007
金谷美術館	富津市	2012

※登録時は市立市川博物館

（千葉県ホームページ「千葉県内の登録博物館」より作成）

このように県と市の両者において、博物館の建設計画があったので、昭和四五年末には、本市は千葉県に協力する趣旨から、市内堀之内貝塚の隣接地にこの分館の敷地を用意することになりました。

その後県は、市と数次にわたる協議を重ね、また設置準備専門委員会による審議を得て、建物の設計、展示内容等の基本計画がまとまりました。ところが、昭和四五年九月

に至り、諸般の状況から県は市に一億円の補助金を出すから、将来県立の分館併設を条件として、本市が設置者となるよう申し入れてきました。市は早速検討の上、これを受け入れ市立の博物館として、昭和四六年四月より建設工事を開始し、昭和四七年十一月三日に開館したのであります。

（『昭和四七年度 市立市川博物館年報』）

一九七二年という年は、日本で初めての冬季オリンピックが札幌で開催され、スキージャンプ競技で日本選手が三つの表彰台を独占し、日本国が大いに沸いた年である。奈良県では、極彩色の高松塚古墳が発見され、古代ロマンに多くの人が夢を寄せた。また、沖縄が返還され、日本が現在の四七都道府県になった年であり、文化的にも自治体にとっても節目の年であったといえよう。その同じ年に、市川市でも新たな文化生活への幕開けを迎えたわけである。

「市川市立博物館の設置及び管理に関する条例」（昭和四十七年十月十二日条例第三二号）には、博物館は、博物館法（昭和二十六年法律第二八五号）第三条に定めるところにしたがい、実物、標本、模型、文献、図書、写真、フィルム等を収集し、保管・展示および閲覧を提供したり、博物館資料に関する講習会、研究会等を開催、また博物館資料に関する調査研究を行うと規定している。

博物館開館三年目の一九七五年の展示室の内容をみると、「環境の変化」「最初の住民（先土器時代）」「貝塚の形成（縄文時代）」「農耕の開始（弥生時代）」「国のはじまり（土師時代Ⅰ）」「社会の改革（土師時代Ⅱ）」という構成になっている。原始時代から国家の誕生までの房総半島を中心とした歴史の動きを展示しており、下総国府・下総国分僧寺・尼寺関係の資料

を中心とした展示が時代的下限だった。開催する講座や講演も、6-2-16にあるように主に原始・古代が扱われていた。6-2-17は、四年後の一九七九年度に行われた市立博物館の事業であるが、特別展に海苔と行徳、郷土めぐりに行徳街道の史跡が実施されている。近世（江戸時代）の歴史に関わる事業も行われるようになっており、中世以降の時代の資料蓄積も進んできたことがわかる。

一九八二年、市立博物館とほぼ隣接する地に、中世以降の歴史時代を扱う市立市川歴史博物館（以下、歴史博物館）が開館し、既存の市立博物館は原始・古代を扱う市立市川考古博物館（以下、考古博物館）となった。一九八三年に刊行された『昭和五十七年度 市立市川歴史博物館年報』に掲載された歴史博物館の「設立主旨」には、以下のような目的が記されている。

市川市は南に東京湾を望み、北に下総台地の広がる自然環境に恵まれた地域である。それを裏付けるかのように市域には、堀之内貝塚・曾谷貝塚・姥山貝塚など著名な遺跡をはじめ、一〇〇を超える遺跡が密集し、さらには下総国の国府・国分寺跡の所在地であることなどから、古くから遺跡の宝庫として知られているところである。中世以降についても農業や漁業の生活を中心に発達してきたところで

〔6-2-6〕 市立博物館事業（1974年度）

行事名	時代
考古学講座1「原始、古代の墓制について - 縄文時代 -」	原始
特別講座1「武蔵野台地の先土器文化」	原始
考古学講座2「原始古代の墓制について - 弥生時代 -」	原始
特別講座2「貝塚と縄文時代の漁労」	原始
博物館実習生受入れ	
夏休み子供学習教室	
博物館事業および堀之内貝塚の説明を聞く会	原始
考古学講座3「原始・古代の墓制について - 古墳時代 -」	原始
特別講座3「東日本の弥生時代について」	原始
特別展「下総国府と奈良・平安時代のやきもの」	古代
特別講座4「変則的古墳について」	原始・古代
特別講演「郷土史シリーズ国府台前役の情勢」	中世
考古学講座4「原始・古代の墓制について - 歴史時代 -」	古代
特別講演「房総三国の国分寺について」	古代

（「（市立博物館）昭和49年度行事実施状況」『市勢概要 昭和50年』より作成）

ある。
しかし、首都東京に隣接する地域として近年急激に都市化が進み、昔の人々の生活を理解していくため必要な多くの資料が消失しつつある。これらの資料を保存し、祖先の生活を再現して、それらを現在の人々に活用してもらうと

〔6-2-7〕 市立博物館事業（1979年度）

事業名	内 容	時代
特別展	海苔と行徳、関東の国分寺	中世・近世
考古学講座	房総の国府と国分寺（3回）、稲作の起源をさぐる（2回）	原始・古代
拓本講習会	拓本用墨の作り方から採拓技術実習まで	
郷土めぐり	行徳街道の史跡、須和田・国分の遺跡	中世・近世
夏休み郷土史学習会	小・中学生を対象に博物館の常設展示を通して郷土の歴史を学ぶ	
土器づくり実習	縄文土器作成の実習	原始
土器による煮沸実験	「土器づくり」で作った土器を使って	原始

（「（市立博物館）事業（54年度）」『市勢概要 昭和55年』より作成）

ともに、後世に伝えていくことは、現在の私たちに課せられた責務であると考ええる。すでに昭和四七年度には考古資料を保存し、かつ活用する考古博物館が建設され、その責務を果している。つづいて、中世以降に属する資料を扱う博物館として、本館を建設した次第である。

市川市域には、堀之内貝塚・姥山貝塚・曾谷貝塚と縄文時代の貝塚があり、それぞれ国の史跡に指定され、考古学にとって、重要な地となっている。また、交通の要地であった市川には、古代より国の役所である国府が置かれており、天平一三（七四一）年の各国に僧寺と尼寺を建造せよという国分寺建立の詔の発令により、下総国では、国分寺が市川の国分台地南端の東側に、国分尼寺が西側に建立されている。さらに、八世紀後半にまとめられた『万葉集』に幾首も詠^{うた}われている「手児奈（手児名などとも）」という乙女が伝説となっていることもあり、研究者や歴史愛好家にとって、市川は原始・古代の歴史の地として著名であった。その後、鎌倉に幕府が置かれ、また近世以降は政治の中心地である江戸・東京からも近かったことから、市川には、中世以降の歴史遺産も多く存在する。しかし、東京に隣接しているという住宅地としての絶好のロケーションから、市川市域における都市化の進展は著しく、それらの歴史遺産が

消失しているという現実があった。

設立主旨からは、既に重要な史跡として認識されている原始・古代と同様、中世以降の歴史遺産も保護・調査し、未来への活用を期して新たに歴史博物館を開設したことがわかる。また、両博物館が隣接して建設されたのは、市川市の長い歴史を概観し、市民により深く理解してほしいという思いからだだったという。同資料には、歴史博物館の開館にあたり、「展示構成の問題、資料収集、パネル原稿の検討など夜を徹しての議論もしばしばありました。博物館をつくる以上は、評価されるようなよい内容の博物館を、その意気込みを職員の一人一人がもち、殺気さえ感じさせる仕事ぶりでした」（『昭和五七年度 市立市川歴史博物館年報』）と記されており、関係者は博物館開設に大きな熱意をもって当たっていたことが感じられる。

博物館の事業には、前述したように展示・講座・実習・資料収集および保存・調査研究などがある。現在の歴史博物館の常設展示をみてみると、導入部となる「中世以降の市川」では、中世から近世、そして近代に至る市川市の概要を展示している。「海辺の人々の生活」では、行徳地域で行われていた塩業と現在も行われている海苔生産について取り上げている。「水路と陸路」では、近世の交通史を整理し、「台地の人々の生活」で農業や農耕儀礼とともに民家の生活を解説し、「郷土と人」の

〔6-2-8〕歴史博物館事業（2014年度）

区分	事業	回数(校数)	人数
展示	松井天山の鳥瞰図と市川市域		8,261
展示	昔のくらしと道具を探そう		8,847
展示	季節の展示〔辻切り〕		1,530
展示	小学校巡回展示	2	586
イベント	縄文体験フェスティバル		430
イベント	サマーフェスタ（歴史地図づくり、竹の水鉄砲作り等）		99
イベント	オータムフェスタ		322
講座	近世史古文書講座	12	612
講座	近代史講座Ⅰ	10	128
講座	近代史講座Ⅱ		19
講座	民具入門講座	2	5
史跡見学会	江戸をあるく	2	51
史跡見学会	市内歴史見学会		22
体験学習	市川ヒストリーツアー	67	652
体験学習	市川ヒストリー体験	2	5
体験学習	博物館ボランティア活動（むかし遊び、紙芝居、紋切り等）	103	1,449
体験学習	小学生向け体験学習	29	2,973
体験学習	正月飾り作り		14
講師派遣	菅野公民館他7館	19	416
講師派遣	市川雑学大学	2	96
講師派遣	吉岡まちかど博物館		73
講師派遣	栃木市民大学		17
講師派遣	出張授業	7	931

（「入館状況」『平成26年度 市立市川歴史博物館館報』より作成）

コーナーで人物と事柄を語るという構成になっている。

61218は、歴史博物館の二〇一四（平成二六）年度の主な事業を記したものである。常設展示のほかにも、企画展や期間ごとの展示を行っており、小学校を巡回するかたちでの展示活動も行っている。近年では、イベント的な行事も多く、考古博物館との共催で行っている縄文体験フェスティバル・サマーフェスタ・オータムフェスタなどには、子どもたちが多く集まり、歴史に関わる道具や資料の作成に職員と一緒に取り組んだり、土器を使って調理したりと体験型の学習をする機会も提供している。また、学校のカリキュラムに関連する体験学習や公民館講座などへの講師派遣活動も活発である。

博物館を舞台に行われている市民の団体活動もある。一九七五（昭和五〇）年に設立された市川博物館友の会（以下、博物館友の会）である。この会が設立された当時は、まだ市川市に博物館が市立市川博物館（現・考古博物館）一館のみの時代であり、同博物館の懇切な指導と協力があり、文化活動の団体が誕生した、と設立当時を回顧した会員の文章に記されている。

歴史博物館が開館した一九八二年の博物館友の会の主な活動を示した61219からは、姥山貝塚など市内の遺跡にとどまらず、武蔵国分寺（東京都国分寺市）、八日市場柳台遺跡（千葉県匝瑳市）、将門関連遺跡など、市外にも足をのびし見学会

〔6-2-9〕博物館友の会の主な活動（1982年度）

年	月	日	事 項
1982	4	18	総会
1982	5	9	市内遺跡探訪（姥山周辺）〔共〕
1982	7	4	武蔵国分寺見学会
1982	7	18	遺跡探訪（八日市場柳台遺跡）〔共〕
1982	9	5	文化財めぐり 行徳ほか
1982	10	11	バス見学会 将門の遺跡をたずねて
1982	11	7	考古博物館開館10周年記念講演〔共〕
1982	11	14	シンポジウム堀之内式土器〔共〕
1982	11	21	市内遺跡探訪（須和田周辺）〔共〕
1982	12	12	下総国分尼寺発掘調査見学会

注）このほかに、考古学講座、拓本、土器づくりが行われた
〔共〕は考古博物館との共催事業
（「博物館友の会」『昭和57年度 市立市川歴史博物館年報』より作成）

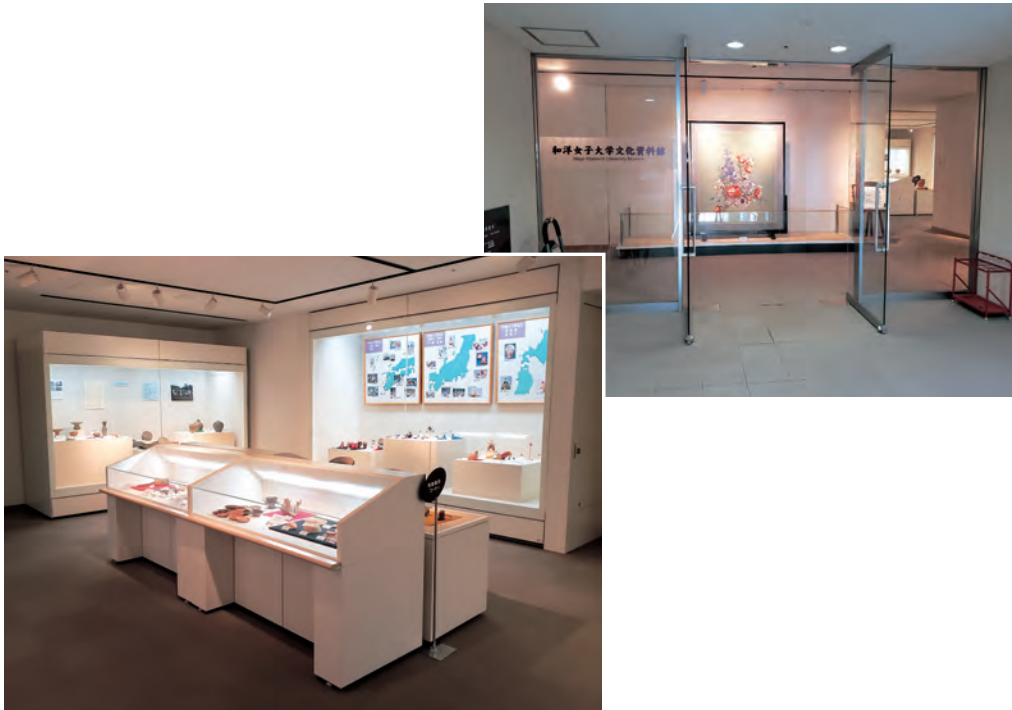
を実施していることがわかる。また、講演会やシンポジウムなどの公開活動のほか、考古学講座、拓本づくり、縄文土器づくりなど活発な学習活動が行われ、その多くが博物館との共催事業として実施されており、友の会の活動に博物館が大きくかわっていることがわかる。

二〇一六（平成二八）年三月十二日から四月十日には、歴史博物館において創立四〇周年記念展示会が開かれた。歴史博物

館開館当時の博物館友の会は、考古部会・歴史部会・民俗部会の三つの部会で構成されていたが、のちには拓本部会を加えた四部会体制となっていた。各部会は、「地域文化を学ぶ」という主題の元に、考古部会は「市川の縄文時代」と題して、縄文土器の展示や、千葉商科大学付属高等学校歴史部の生徒が作成した土偶に関連した研究成果などを、歴史部会は、「市川の戦隊のジオラマを、民俗部会は、「葛飾八幡宮と八幡不知森の今昔」をテーマに錦絵や八幡の藪しらずの拓本や八幡の「ぼろ市」関連を、そして拓本部会は、「市内小学校校歌碑の拓本」を取り上げ関連展示も行った。

ほかにも博物館友の会は、研究成果をまとめて出版も行っている。これらの活動には、個人の学習だけにとどまらず、地域との協力や、また成果の還元を行うという要素もある。その意味においても、指導や援助というかたちで関わる博物館は市民の生涯学習の拠点として大きな存在となっている。

歴史博物館の設立主旨に述べられているように、東京に隣接しているという地理的条件から急速に都市化が進んでしまった市川市に住む人びとが、この地のかつての生活を知り、そして理解するために、残された貴重な資料を保存し、活用し、後世に伝えていくことは博物館の大きな仕事であろう。学芸員の十



〔6-2-10〕 和洋女子大学文化資料館

分な配置も困難といわれる時代ではあるが、積極的な資料収集と保存、そしてその調査について、さらに力を入れ、次の時代に市川の文化を引き継いでもらいたいものである。

市川市域には四館の登録博物館のほかにも、一九九三年に設置され、翌一九九四年に博物館相当施設に指定された和洋女子大学の文化資料館がある。6-2-10の和洋女子大学文化資料館は、学生による市民に向けたミュージアムという運営理念のもと、考古、服飾、工芸・民具などの資料を展示・公開し、学生の教育に資するとともに、社会に向けて学術・文化を発信して、地域の生涯学習に大きな役割を果たそうとしている。

博物館類似施設としては、二〇〇五年に市川市中山に開館した市川市東山魁夷記念館がある。6-2-11

終戦の翌年に市川市に移り住み、その最期のときもこの地で迎えた東山魁夷は、「私の戦後の代表作は、すべて市川の水で描かれています。」ということばを残しているように、市川市で暮らした五二年間に多くの作品を描いた。一九八五（昭和六〇）年に開館した市川市文化会館の大ホール第一緞帳の原画を制作するなど、市川市との関わりが深い芸術家であり、一九八八年に市川市から名誉市民の称号を贈られている。一九九四（平成六）年に開館した市川市生涯学習センター内には、東山魁夷アートギャラリーが設けられたが、これが東山魁夷記念館



〔6-2-11〕 市川市東山魁夷記念館

の前身である。

このほかにも、市川市の文化活動のひとつとして行われているのが、「街かどミュージアム都市づくり」である。街かどミュージアム都市づくりとは、地域の文化資源や文化活動の場の整備と活用を図り、文化都市としてふさわしい街にしようとする活動で、市川・真間地区では二〇〇四年度から、国分・国府台地区では、二〇〇七年度から、そして行徳・妙典地区では二〇〇九年度から、街かどミュージアム都市づくり懇談会を開催し、市民との意見交換を行った。

また二〇年にわたって開催されているイベントが街回遊展である。街回遊展は、街を歩きながら地域文化を知り、その街の魅力を再発見するとともに、文化芸術を通して多くの人びとの交流を図る目的で始められたものである。

第一回	一九九九年	四月	中山・若宮地区
第二回	二〇〇〇年	四月	市川・真間地区
第三回	二〇〇〇年十一月		行徳地区
第四回	二〇〇一年	十月	大野地区
第五回	二〇〇二年	十月	八幡地区
第六回	二〇〇三年	七月	国府台・矢切地区
第七回	二〇〇五年	三月	須和田・国分地区

第八回	二〇〇六年 三月	中山地区
第九回	二〇〇七年 三月	行徳地区
第一〇回	二〇〇八年 三月	真間地区
第一一回	二〇〇九年 三月	信篤・二俣地区
第一二回	二〇〇九年 十月	曾谷地区
第一三回	二〇一〇年 十月	市川・新田・真間・ 国府台地区
第一四回	二〇一一年 十月	中山地区
第一五回	二〇一二年十一月	中国分地区
第一六回	二〇一三年十一月	妙典地区
第一七回	二〇一四年 九月	八幡地区
第一八回	二〇一五年 十月	市川地区
第一九回	二〇一六年 十月	南行徳地区

このように街回遊展の開催地は市川市域の全域に及んでいる。このほかに、二〇〇二年には国府台（三月）、南行徳（十一月）、二〇〇三年には国府台でミニ回遊展が開催されている。各回、来訪する人びとも、迎える人びとも笑顔と活気にあふれている楽しいイベントである。

また、脚本家・水木洋子邸、市川市芳澤ガーデンギャラリー、市川市木内ギャラリーなどを開設し、市川市に寄贈された建造

物を利用して、イベントや展示を行っている。これらの施設は、同時に文化団体の活動の場としての顔も持っている。ほかにも市域に点在する文化施設は平時においても市民が街を回遊して楽しめる拠点としての役割を果たしている。

このように豊かな地域の文化資産を整備し、文化活動の場として活用し、市川市域全体を美術館、博物館にしてしまおう、という活動が「街かどミュージアム」という取り組みである。市民の活用があつてこそ、これらの施設はさらに生きていくということであろう。

3 公民館活動と芸術祭・文化祭

公民館は、一九四九（昭和二四）年に制定された社会教育法のなかに位置づけられている施設で、市町村か、公民館設置を目的とする一般社団法人または一般財団法人でなければ設置することができない（第二一条）と規定されている。その活動は、定期講座、講習会、講演会、展示会を開催すること、図書などを備え、その利用を図ることなど多岐にわたり、またその施設を住民の集会や公共的目的に供することとしている。二〇一五（平成二七）年現在、市川市には社会教育法を根拠とする公民館が、61212に示すように一六館ある。

〔6-2-12〕 公民館一覧（2015年度）

名称	開館（西暦）	エリア
中央公民館	1952	③
西部公民館	1974	⑥
鬼高公民館	1978	④
行徳公民館	1978	⑩
東部公民館	1979	⑤
柏井公民館	1980	⑨
本行徳公民館	1980	⑩
大野公民館	1981	⑨
市川駅南公民館	1981	②
信篤公民館	1982	⑧
曾谷公民館	1983	⑦
若宮公民館	1987	⑤
幸公民館	1989	⑬
南行徳公民館	1990	⑫
市川公民館	1991	①
菅野公民館 （中央公民館菅野分館として2004年開館）	2011	③

（「公民館一覧」『市政概要 平成27年度版』より作成）

市川市で初めて公民館が設置されたのは、一九五二（昭和二七）年、葛飾八幡宮境内に開館した現在の中央公民館だった。この時の市川市には、まだ南部の行徳町・南行徳町が市域となっておらず、一九五〇年の人口は、一〇万二五〇六人で、その設置割合は単純計算で約一〇万人に一館という具合だった。一九五五年に行徳町が、一九五六年に南行徳町が市域に加わり、両町合併後の一九五六年には、市川市の人口は一四万一五二八人となったが、公民館一館体制はしばらく続いた。二館目の公民館は、二〇年以上の時を隔てた一九七四年に中国分に開館した西部公民館である。この年の人口は三〇万一九五二人で、一五

万人に一館という割合となった。その後、九〇年代初頭にかけて公民館の開館が続き、一番新しい菅野公民館が、その前身である中央公民館菅野分館として開設された二〇〇四（平成一六）年には、四六万四八七三人の人口のもと一六館が運営されており、設置割合は二万九〇五五人に一館と三万人弱に一館という割合になった。二〇一五年段階においても、一館あたり二万九五二四人であり、その比率は概ね変わらない。市史エリア（第1章1-1-1参照）でみると、⑪には公民館を欠いているものの、近隣の⑩に複数の公民館があり、ほぼバランスを保っているといえるだろう。ここでは、公民館一六館の中から、市域最初の公民館で交通の利便性もある中央公民館と、市域北部にあり、駅から若干離れた場所に位置している柏井公民館の二館を取り上げ、その事業をみてみたい。

中央公民館は一九四九年十一月に市制一五周年記念事業として計画され、一九五二年に開館した当初は市川市公民館（以下、中央公民館）と称した。中央公民館は、JR総武線・本八幡駅および京成本線・京成八幡駅から徒歩五分程度の距離にあり、両駅を経路とするバス路線も豊富な交通至便の地にあり、通勤や通学の途中で利用することも可能な施設である。中央公民館は、『市勢概要 昭和五五年』のなかで、その目的を、「成人学校、高齢者教室、婦人教室、青年教室その他各種の教室を開設

〔6-2-13〕中央公民館開催講座（1980年度）

対象	学級、講座名	参加人員	実施回数	学習内容
青年	勤労青年教室	168	20	一般教養、レクリエーション
婦人	婦人教室	239	11	家庭の人間関係、婦人の自立、福祉関係
	言語障害幼時母親学級	224	10	言語障害児の指導
	幼児教室	205	5	幼児期の健康管理、しつけ
老人	老壮大学	1699	23	健康管理、時事問題、園芸他
成人	英会話教室	330	10	日常英会話 初級
	中国語講座	241	10	中国語会話 初級・中級
	成人学校	3,337	134	作法、編物、絵画他
	婦人教養講座	70	2	歴史上の女性の背景と生き方

（「各種講座実施状況〔中央公民館／55年度〕」『市勢概要 昭和56年度版』より作成）

〔6-2-14〕中央公民館利用状況（1980年度）

区分	公民館主催事業	公民館クラブ	青年団体	老人クラブ	市関係	その他	計
回数	225	864	0	44	115	110	1,358
人員	6,513	15,722	0	1,457	4,110	2,285	30,087

（「利用状況〔中央公民館／55年度〕」『市勢概要 昭和56年度版』より作成）

し、市民の自主的な学習活動をとおして、市民自らの力で課題解決の方法と意欲をつくりあげていくこと」と記し、市川市における公民館活動の中心拠点として、その姿勢を示している。

6-2-13は、一九八〇年度の中央公民館の開催講座を示したもののだが、子どもを除く幅広い世代に、二二五回の学習機会を提供し、六五一人の参加者を得ている。公民館が開催する講座は、公民館から市民への発信といえるだろう。そして、講座に参加した市民に、その後も施設を活用してもらうことが、公民館の大きな目的でもある。そのひとつの利用例として、講座終了後、受講者たちを核としてサークルができることがあり、公民館はそのサークルの活動場所としても提供されている。

6-2-14には、公民館クラブの活動回数が記されている。公民館クラブには、前述の公民館主催講座終了後、引き続き学びの機会を求めて、サークルとして活動の場を中央公民館に設けた団体や、別の経緯で設立された団体などがあるが、それらの公民館クラブの活動回数は八六四件、参加の延べ人数は一万五七二二人にも上っている。中央公民館が目指していた「市民の自主的な学習活動」が実践されていることを示しているといえよう。

公民館講座は毎年開催されている。6-2-15は、中央公民館で開催された二〇〇二年度の春講座・秋講座と二〇一〇年度

第2節 多彩な文化施設と文化事業

〔6-2-15〕 中央公民館開催講座（2002・2010年度）

年度	講 座	回数	内 容	定員	
2002 （平成14）年	春講座	有楽流茶道教室	8	織田信長の末弟、織田有楽斎を流祖とする。武家に伝わる茶道	20
		実用書道講座	6	名前等筆で上手に書きたい！ ちょっとしたコツをつかんで日常に役立つ筆使いを学ぶ	20
		美術館を読む	5	近郊の美術館を訪ねて、美の世界を読み取る。又芸術に触れる機会とする	20
		生活学講座	7	契約トラブル・環境問題・サプリメントと薬の関係など消費生活に関する知識を深める	40
		文章基礎講座 あなたもエッセイスト	6	文章の基礎を我がものにし、美しい情景、旅の話、自分の人生を素直に文章にしよう	20
		小学生の囲碁教室	7	シルバーとジュニアで楽しく過ごす囲碁交流	20
		ちぎり絵講座	4	手すき和紙を素材とし指先でちぎり、オリジナリティあふれる作品(絵)を作る	20
	秋講座	和紙の芸術	4	クリスマス用ポインセチア、干支を押し絵で飾ってみませんか	30
		実務に役立つパソコン講座	8	WORD、EXCEL（文書作成・表計算）を総合的に習得する	15
		美術館を読む	3	近郊の美術館を訪ねて、美の世界を読み取る。また芸術に触れる機会とする	20
		初歩の写真教室	4	今、お持ちのカメラでワンランクアップの写真を撮ってみませんか	15
		生活学講座	4	生活習慣病をしっかりと勉強しましょう（調理実習・運動）または骨密度は？	40
		子供の茶道教室	3	茶道を体験し、日本の文化に触れてみましょう	20
		中国墨彩画講座	4	墨彩画の基本的筆法、墨法を具体的に学び、中国美術についても学ぶ	15
2010 （平成22）年	春講座	和太鼓で元気もりもり	3	鼓動に乗って、心身ともに健康づくり	10
		トールペイントで花のある素敵な暮らし	4	可愛い小物入れ・ティッシュボックス	10
		吹き矢で楽しく心と体の健康づくり	3	腹式呼吸で脳を活性化し集中力アップ	16
		裂き織でミニバッグ作り	3	ボードを使って手軽に裂き織を楽しむ	10
		水彩画で愛でる新緑の世界	4	基本を学び新緑の八幡神社境内を描く	16
		ココロが元気になる花講座	3	ワイルドフラワーの花かごなど3作品	12
		親子で作って楽しむ音楽広場	4	鍵盤ハーモニカ・歌・工作に親しむ	10組
		ソフト粘土で飾る色とりどりの花々	2	薔薇等の花々で飾るウェルカムボード	10
	秋講座	はじめての籐工芸	4	手作りの籐工芸作品を3点つくる	10
		きらめく銀世界のクリスマスツリー	3	トールペイント柵、雪景色を描く	10
		俳句と川柳で言葉遊び	4	日々の暮らしと秋の風を詠む	12
		エンジョイ放課後クラブ	3	トール・デコパージュ・エコバック	10
		井上ひさしと市川	2	井上ひさしの軌跡をたどり、市川との関わりを学ぶ	20
		はくとわたしのわくわく講座	4	手織マフラーと布ぞうりにチャレンジ	10
鍵盤ハーモニカで脳トレ 筋トレ		3	簡単な楽譜の読み方を学び、合奏する	10	
親子・ともだちふれあい広場		2	音楽、工作に親しみ、紙芝居を楽しむ	10組	
	骨盤スッキリストレッチ	4	骨盤矯正で心と体をやさしく元気に	12	
	千代紙で作る色紙びなと立ちびな	3	自分だけの愛らしいお雛さまを作る	10	

（『市川市公民館主催講座情報紙 ミーティアムガイド』3号・4号・19号・20号より作成）

の春講座・秋講座を掲げたものである。子どもや親子を対象とした講座が増え、多様な市民層が受講できる構成になっている。また、教養に類する講座も多く、カルチャーセンターの様な学びが教材等の実費のみで受講できるという公民館ならではの特色もある。これは、中央公民館が地域の各地からのアクセスが容易で、多くの市民が生涯学習に気軽に参加できるという長所を活かしたもので、公民館活動の中心拠点として啓蒙活動の役割を果たしているとも考えられる。

一方、柏井公民館は、周辺には梨畑が広がる市の北東部に位置している。JR武蔵野線の船橋法典駅と市川大野駅のいずれからも徒歩で三〇分程度を要するため、アクセスにはバスか自家用車、自転車を利用することが多い。そのため中央公民館のように市域各方面から利用されるというより、地域との関係がより濃密な公民館であると考えられる。柏井公民館は一九八〇（昭和五五）年に開館しており、四〇年近い歴史を有している。まず開館から間もない頃の柏井公民館の様子をみてみよう。

『市勢概要 昭和五五年』の柏井公民館の項目では、「当公民館は今年度五月開館したばかりであるので、まだ十分住民にその存在が知られているとは思えない。そこで地域住民が必要とする学習要求を、すみやかにとらえ公民館事業としてとり入れ、各種クラブの育成、図書の貸出などの事業を通じ住民に身

近かな公民館としての地位を確立したい。」と意気込みを記している。

61216は、開館の年である一九八〇年度に開かれた柏井公民館の講座である。子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に講座が開かれており、その中には、中学生と母親が対象という意欲的な講座もある。また、中央公民館と比較して、生活や楽しみに根ざした内容がやや多い。なかでも農業講座の存在は、市川市北東部という地域の特性を明確に表しているといえよう。

これらの講座は、「最終的には、地域の連帯感をさらに強化しつつ、地域コミュニティ、文化活動の中心地としての役割を果たしたい。」（『市勢概要 昭和五六年度版』）という柏井公民館の目的意識から生まれたものであろう。61217は、一九八〇年度の柏井公民館の利用状況を示したものである。六四回の公民館主催事業を実施し、一九九二人の利用者を集めている。開館して間もないことから公民館クラブの活動回数は四回、参加の延べ人数は三一人と、まだ数値は小さい。しかし、その他の利用回数が中央公民館の倍以上の二八九回を数え、参加の延べ人数も四〇三九人と大きな数字を示していることに特徴がある。詳細は不明であるが、多様な団体の利用があることから、地域との共存やその多様性という姿が想像できるのである。

近年開かれた柏井公民館の講座を紹介したい。二〇一五年の

〔6-2-16〕 柏井公民館開催講座（1980年度）

対象	学級、講座名	参加人員	実施回数	学習内容
児童	各種子供会	330	10	工作、映画会等
婦人	料理教室	210	7	手がるにできる家庭料理
	着付け教室	270	9	きもの着付
複合	母と子(中学生)の天文教室	100	2	天体への学習、母と子のふれ合い
一般	家庭教育講座	200	5	父親・母親の役割・家庭内暴力等
	書道教室	200	10	楷書・行書・草書・かな
	市民教室	210	5	映画鑑賞
農業	農業教室	30	1	夢の肥料
老人	シルバー大学	409	9	健康、年金、福祉、寄席、生きがい、映画会

（「各種講座実施状況〔柏井公民館／55年度〕」「市勢概要 昭和56年度版」より作成）

〔6-2-17〕 柏井公民館利用状況（1980年度）

区分	公民館 主催事業	公民館 クラブ	各 種 青少年団体	老人団体	市関係	その他	計
回数	64	4	1	2	15	289	375
人員	1,992	31	7	40	317	4,039	6,426

（「利用状況〔柏井公民館／55年度〕」「市勢概要 昭和56年度版」より作成）

秋に開催された『私の逸品』という講座である。市川市教育委員会社会教育課が春と秋の年二回発行している『市川市公民館講座情報紙 ミーティアムガイド』の第三〇号には、「特別支援学校の生徒&先生と一緒に、たたら粘土で私だけのお雛様を作る」と紹介している。この講座が企画された二〇一五年度の同公民館の講座計画書には、「文化祭に参加していただいた市川大野高等学園と共催のような形で陶芸教室」「地域との連携をめざし、（略）新たに市川大野高等学園の教員・生徒による陶芸教室」とあり、柏井公民館からほど近い場所（旧・市川北高校所在地）にある同校との連携に積極的である。この講座は単年で終わることなく、二〇一六年度には、『陶の灯^{あかり}』（内容・陶で作るランプシェード LED電球付）、二〇一七年度には、『陶で遊ぶ』（内容・陶で作る可愛い動物の小物入れを制作）と二〇一七年現在、三年にわたって開催されている。また、講座の指導を担当する講師をみると、初年の二〇一五年の講師は、「市川大野高等学園窯業コース」、二〇一六年以降は「市川大野高等学園 窯業科生徒」となっており、学園の生徒が指導者であるということを明確化している。

二〇一七年度の講座では、作業台となるテーブルに三人ほどの受講生が座り、指導者である市川大野高等学園の生徒がそれぞれテーブルを担当し、また特定の役割を持った生徒は各テ-

〔6-2-18〕 柏井公民館開催講座（2011年度）

年度	季	号	講座	回数	内容	定員
2011 (平成23) 年	春講座	21	女性カレッジ 重曹パワーを知ろう	2	エコ洗剤を作る。館外、日本橋を巡る	18
		21	草木染 春の色を吹き込む	2	植物や自然の素材を使い小染物を作る	12
		21	オカリナを作り楽しく演奏	3	手作りオカリナで心癒す音色を楽しむ	12
		21	ジュニアゴルフ 集まれ大好きっ子	5	基礎を学び最終日ビデオチェックする	10
		21	無添加手づくりパン	2	手ごねで栄養のある米粉パン等を作る	16
		21	手打ちそば女性教室	2	こねる、切る、茹での基本を知り食す	16
		21	マイパソコンで学ぶワード2007・2010	4	パソコン持込みで新機能の操作を学ぶ	12
		21	はじめの一步 踊る「フラメンコ」	3	基本動作を学び楽しく踊りながら姿勢や骨盤を矯正して健康増進を図る	16
		21	幸田文と市川	2	晩年の父露伴と菅野に暮らした幸田文の作品と市川との関わりを学ぶ	15
	秋講座	22	奏でよう ウクレレの調べ	5	ウクレレの基礎を学び演奏を楽しむ	14
		22	笑顔を届ける 親子ヨガ	3	親子で体を動かしスキンシップを図る	15組
		22	備えて安心 防災対策	2	想定外の災害から身を守る方法や保存食の備蓄など防災体験を交えて学ぶ	20
		22	2007・2010 パソコンで年賀状	5	パソコン持込みで年賀状を作成する	12
		22	消しゴムはんこで干支づくり	3	季節模様のはんこを彫り作品を作る	12
		22	季節の手作りケーキ	2	焼菓子とブッシュドノエル作りに挑戦	16
		22	仏像の魅力をやさしく学ぶ	3	仏像の基礎を学び、行徳寺町巡りをする	18
		22	こもればコンサート 弦・魅惑の音色	2	ヴァイオリンとハープのデュオ チェロとピアノのデュオ	30

〔「市川市公民館講座情報紙 ミーティアムガイド」21号・22号より作成〕

ブルを回って指導してくれるのである。市川大野高等学園の教師も講座に同席しているが、受講生に直接指導するのは、あくまで窯業科の生徒たちである。受講生は指導者を務める市川大野高等学園の生徒たちと話をしながら、作品を作りあげていく。形作った作品は市川大野高等学園に運ばれ、そこで焼き上げ、後日、公民館に届けられるという流れである。この講座を柏井公民館は継続して開講している。交通至便とはいかない地域であればこそ、地域に根付く公民館をめざすという柏井公民館ならではの講座ではないだろうか。

また、6・2・18は、二〇一一年度の柏井公民館の春と秋の主催講座である。二〇一一年は三月十一日に東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生した年である。前年度のうちにスケジュールが組まれていた四月から始まる春の講座にはみられなかったが、秋の講座には、「備えて安心防災対策」という講座が開催されていることに注目したい。想定外の災害から身を守る方法や、保存食の備蓄など防災体験を交えて学ぶことが内容になっており、市川市役所・危機管理課の職員などが講師となっている。このような防災講座の開催は柏井公民館だけに限らず、同年秋には、西部公民館「非常時に備え万全の知識を学ぶ」、大野公民館「もしもの地震に備えて」、本行徳公民館「災害時に役立つ知識を身につけよう」と、合計四館において開催

〔6-2-19〕市川市芸術祭・文化祭開催事業（2018年度）

行事名	開催日時	団 体
市川さくら草展示会（49回）	4月21日～29日	市川さくら草会
春の史蹟まつり（37回）	4月29日	真間史蹟保存会
市川市美術展覧会（66回）	4月21日～5月6日	市川美術会
市響ジュニア定期演奏会（43回）	5月5日	市川交響楽団協会
市川市写真展（30回）	6月19日～24日	市川市写真連盟
市響「交響楽の午後」（401回）	7月8日	市川交響楽団協会
市響「市吹秋のコンサート」（402回）	9月9日	市川交響楽団協会
市川市珠算競技大会（69回）	9月9日	市川商工会議所
市川市手工芸公募展（28回）	9月12日～16日	市川市手工芸連盟
芸術文化集会（25回）	9月24日～30日	市川市芸術文化団体協議会
オペラ公演	9月30日	市川オペラ振興会
市川の民話のつどい（41回）	10月13日	市川民話の会
市響「合唱の集い」（403回）	10月14日	市川交響楽団協会
謡と仕舞の会（36回）	10月21日	市川市能楽連合会
市川市吟剣詩舞道大会（41回）	10月28日	市川市吟剣詩舞道連盟
市民茶会	11月4日	市川市茶道会
川柳大会（67回）	11月4日	川柳新潮社
市川市民合唱祭（40回）	11月10日・11日	市川市合唱連盟
市川市三曲協会定期演奏会（43回）	11月11日	市川市三曲協会
市川市菊花展（60回）	10月31日～11月15日	市川市菊華会
市川市民将棋大会（25回）	11月11日	市川市将棋愛好会連盟
市川市民短歌大会（37回）	11月18日	市川市短歌協会
市川市市民俳句大会（70回）	11月23日	市川市俳句協会
市響「ファミリー交響楽 コンサート」(404回)	12月9日	市川交響楽団協会
いけばな展（74回）	3月16日～18日	市川市花道協会
市川市邦楽連盟演奏会（36回）	3月23日・24日	市川市邦楽連盟
市川市洋舞踊合同公演（36回）	3月31日	市川市洋舞踊協会

（市川市ホームページ「平成30年度 市川市芸術祭・文化祭」より作成）

が確認できる。

公民館の講座で興味をもったこと、あるいは知己となった方との交流の場として施設を提供できることは、公民館にとつての市民や地域への還元でもある。今後も市川市域の各公民館が地域において多様な活動をするとともに、環境や状況に対応した発信・受信の核となっていくことも、現代における公民館の新たな存在意義であると考えられる。

市川市では、数々の芸術文化団体が活動している。『市川市芸術文化団体要覧』（二〇〇三年）によれば、一九七四年に、市川交響楽団協会・市川小型映画協会・市川市花道協会・市川市歌人協会・川柳新潮社・市川市菊華会・市川茶道会・市川市演劇研究会・市川美術会・市川囲碁会・市川民謡連合会・日本美術刀剣保存協会千葉県支部・市川市俳句協会の一三団体により設立された市川市芸術文化団体協議会が核となり、市川市の文化向上の原動力となるべく、参加団体間や外部団体との研修・協議、市への建議等を通して傘下団体の活発化、市民文化の振興に努めてきたという。

市川市域の芸術文化団体と市川市が共同で開催し

ているのが、市川市芸術祭・文化祭である。これは、市域で芸術活動を楽しむ人びとの日頃の文化活動の成果を発表する場であり、同時に市民に質の高い展示や舞台などを気軽に鑑賞してもらう機会を提供する意味も持っている。

6・2・19は、二〇一八年度の開催事業一覧である。市内の芸術団体が企画した二七の行事が八幡を中心とした会場で開催されている。おなじ「まつり」と名のつく、いちかわ市民まつりは、十一月三日の文化の日など特定の日に開催されるが、市川市芸術祭・文化祭は、多くの会社が休暇となる旧盆（八月）と年末年始を除く四月から三月まで毎月のように行事が開催されていることが特徴である。市民は一年を通して様々な文化に触れることができるのである。

4 市民とスポーツ

市川市では市民のスポーツ活動も活発である。市長を務めた千葉光行は、在任中の二〇〇〇（平成一二）年に創立五〇周年を迎えた、市川市体育協会への祝辞の中でスポーツについて、「いつの時代にあっても健康は人々の切実な願いであり今後日常生活の中で、生き甲斐を求めて行なう生涯スポーツの重要性がますます増大してくるものと思われます。」と、その認識を

記している。当時の市川市教育委員会教育長の最首輝夫も「近年、国民の価値観も量から質へ、物の豊かさから心の豊かさへと重点が変化し、それに基づくニーズも個人生活尊重、余暇・レジャー重視、生涯学習志向の増大等、高度に、そして多様化しております」と述べており、スポーツ施策に大きな期待を寄せていることがわかる。

『市政概要 平成二七年度版』に記された市川市の主なスポーツ推進事業は、スポーツ教室・講習会として、健康スポーツ教室、市民スポーツ教室、障がい者軽スポーツ教室、ファミリーデイキャンプ、市川市公認スポーツ指導者養成講習会が、また大会・行事としては、市民体育大会、みんなでスポーツ、市川市民元旦マラソン大会、下総・江戸川ツデーマーチ、ラグビーフェスティバルが挙げられている。

市川市はスポーツの振興にあたって、市川市スポーツ振興審議会（現・市川市スポーツ推進審議会）の提言等を尊重し、生涯スポーツの推進をめざして、スポーツの生活化・組織化を図ってきた。その目標とするところは、市民が生涯を通して健康で、活力に満ちた生活を営むことであり、「WHO憲章の精神を尊重した『健康都市いちかわ』宣言」の精神にも合致するところであろう。

当時のスポーツ活動の推進の背景には、一九六一年に制定さ

れた「スポーツ振興法」（昭和三十六年法律第一四一号）がある。この法律には、スポーツ振興のため、地方公共団体の役割について触れているところも多く、スポーツ振興審議委員会を都道府県や市町村に置くこととしている。そして、同委員会の活動は、「（略）知事又は市町村の教育委員会の諮問に应じて、スポーツの振興に関する重要事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して都道府県の教育委員会若しくは知事又は市町村の教育委員会に建議する」（第一八条）こととしている。

また、地方公共団体については、「ひろく住民が自主的かつ積極的に参加できるような運動会、競技会、運動能力テスト、スポーツ教室等のスポーツ行事を実施するように努め、かつ、団体その他の者がこれらの行事を実施するよう奨励しなければならない。」（第七条）とスポーツ行事の実施および奨励について規定されている。スポーツ振興法は二〇一一（平成二三）年に法改正され、スポーツ基本法（平成二三年法律第七八号）となった。市川市では同法のもと、スポーツ推進委員が社会体育行事や地域スポーツの普及活動を行い、組織的で多彩なスポーツ活動を繰り広げているのである。

市川市のスポーツ振興に携わる団体として、大きな役割を果たしてきたのが、一九五〇年八月に陸上競技協会、軟式庭球連盟、卓球連盟、籠球協会（バスケットボール）、排球協会（バ

レーボール）、小中学校体育連盟、連合青年団の七団体により組織された市川市体育協会である。市川市体育協会は、県民体育大会、市民体育大会、スポーツ教室などを実施し、競技スポーツの普及振興のため活動しているが、その背景のひとつには、国民の余暇の増大があった。

一九八〇年頃から民間企業にも少しずつ導入されていた週休二日制は、一九九二（平成四）年に国家公務員に導入されたことから転換期を迎えた。同年秋には、文部科学省が月一回の土曜日を休校とした。三年後の一九九五年四月からは、土曜休校が月二回と段階的に拡大され、一九九六年の中央教育審議会の答申を受けて、二〇〇二年からは、学校週五日制（週休二日制）が実施された。週休二日制の波は、最初に労働環境、つまり「親」の側から起こった。その後、学校が週末に休みとなり、「子」が在宅しているということは、週末を親子で過ごす家庭もあれば、子だけで過ごす時間が長くなるというケースもあり、実際の生活において大きな影響があった。

市川市体育協会は、二〇〇〇年度には、ソフトテニス、卓球、陸上、ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、なぎなた、空手、アーチェリー、インディアアカ、合気道、サッカー、ゲートボール、テニス、剣道の一六種目の教室を開設し、年間を通し、各競技団体がそれぞれスポーツ教室

〔6-2-20〕 秋の市民体育大会プログラムの一部（2018年度）

種 目	日 時	担 当
ソフトテニス団体戦	9月29日	ソフトテニス連盟
ソフトテニス個人戦（市選手権大会）	10月6日	ソフトテニス連盟
ソフトテニス成年・シニア	11月3日	ソフトテニス連盟
卓球	10月7日	卓球連盟
陸上	10月8日	陸上競技協会
剣道	10月8日	剣道連盟
フォークダンス	12月17日	フォークダンス協会
柔道	11月3日	柔道協会
弓道	11月4日	弓道連盟
テニス	10月28日	テニス協会
バドミントン	11月18日	バドミントン協会
バドミントン	10月7日	バドミントン協会
バドミントン	10月13日	バドミントン協会
バドミントン	11月23日	バドミントン協会
フェンシング	11月11日	フェンシング協会
空手道	11月23日	空手道連盟
なぎなた	11月11日	なぎなた連盟
ボウリング	10月8日	本八幡スターレーン内市民ボウリング大会担当
合気道	11月3日	合気道連盟
インディアカ	9月9日	インディアカ協会
バウンドテニス	9月23日	バウンドテニス協会

（『広報いちかわ』1599号、2018年9月1日付より作成）

や講習会等を開催した。

市が、地域ぐるみで親しむことのできるスポーツ種目を設定して教室を開くなどのスポーツ施策を行うことは、「生まれた自由時間」に個々の家庭だけで対応するのではなく、地域ぐるみで対応しようという取り組みと考えることもできる。また学校での部活動指導者不足への対応ともなり、拡大解釈すれば、学校と地域社会が連携したある種のスポーツクラブ化構想のよ

うなものといってもよいだろう。

ここで市川市体育協会が行っているスポーツ推進事業から市民体育大会と市川市民元旦マラソン大会について簡単に触れておこう。一九五〇（昭和二五）年の市川市体育協会の設立を期して、この年に前述の陸上競技協会、軟式庭球連盟、卓球連盟、籠球協会、排球協会、小中学校体育連盟、連合青年団の七つの加盟団体によって第一回市民体育大会が第二中学校を中心として開催された。6・2・20は、第一回市民体育大会の開催から六八年後の二〇一八（平成三〇）年九月から十二月に行われる市民体育大会への参加募集を報じた広報から作成したプログラムの一部である。それぞれの競技を企画する団体のもと行事が開催されていることがわかる。

二〇一八年四月に市川市体育協会が開催を予定している体育大会の一覧によると、市川市体育協会に所属する二七の団体が、

秋の市民体育大会を含めた競技大会の開催を企画している。一覽では、新年度早々の四月と梅雨の六月を除く各月にいずれかの競技大会の開催予定が入っている。前項で述べた芸術祭・文化祭同様、スポーツにおいても、市民は一年を通して参加や観戦が可能のように計画されているのである。

もうひとつ、市川市において長い歴史を持つものとして市川市民元旦マラソンがある。市川市民元旦マラソンには、一九四八（昭和二三）年冬、当時の市川市立国府台中学校（県立国府台高等学校前身校のひとつ）で行われていた陸上競技の冬季訓練という前史がある。国府台中学校の冬季訓練の行程は、国府台を起点に松戸街道を走り、柴又帝釈天に向かい、江戸川橋を回って戻るもので、一万二〇〇メートルのコースだったという（『市川市体育協会五〇年史』）。市民の体力づくりに活用するため、市川市体育協会の設立を記念して、協会事業として、一九五一年元旦に柴又帝釈天初詣マラソン（一万メートル）として、第一回大会が開催された。一九五三年の第三回大会からは、市川市・市川市体育協会共催行事となり、交通事情なども考慮し、コースは市川駅から中山折り返し市川小学校ゴールに変更された。その後、コースは、不二女子高等学校〜大柏往復（第一四回大会／一九六四年から）、大柏地区開催（第三八回大会／一九八八年から）、富貴島小学校地区開催（第四〇回大

会／一九九〇年）、スポーツセンター地区開催（第四一回大会／一九九一年から）と変遷している。内容も当初の一万メートル（一〇キロメートル）のほかに、現在では、男女とも、二キロメートル、五キロメートルと体力に応じたコースを選んで完走の喜びをより多くの人に味わってもらえるものになっている。またファミリー二キロメートル、ウォーキング四キロメートルというコースもあり、気軽に楽しく参加できる健康増進のための大会となっている。

5 市川と相撲

種々のスポーツが盛んな市川市だが、スポーツに関連してほかの地域にはない特筆すべき学校設備がある。それは、ほとんどの市川市立の小学校に土俵が設置されていることである。現在では、期間限定で土俵が設けられる学校もあるが、多くの小学校では、6・2・21のように敷地内に土俵を持っている。これは現代においては稀有なことであり、市川市立の小学校の特色でもある。ここで小学校に土俵が設置されるようになった背景を考えてみよう。

市川市と相撲といえば、最初に思い浮かぶのは、幕末から明治にかけて活躍した境川浪右衛門さかいがわなみえもんであろう。境川浪右衛門は

江戸末期に現在の市川市高谷に生まれ、江戸の奉公先からの縁で相撲の道に入り、その後、千葉県出身者で初めての横綱になった人物である。6-2-22は、一八七二（明治五）年三月場所の番付表であるが、上段の力士の部分は次のように記されている。

(東方)		
(張出)		
大関	高知	綾瀬川山左衛門
関脇	尾州	境川浪右衛門
小結	高知	両国梶之助
前頭	大泉	朝日嶽鶴之助
前頭	津	盤石力勝
前頭	薩州	鯨ノ海梅吉
前頭	桑名	荒馬大五郎
前頭	尾州	国見山半五郎



市川小学校



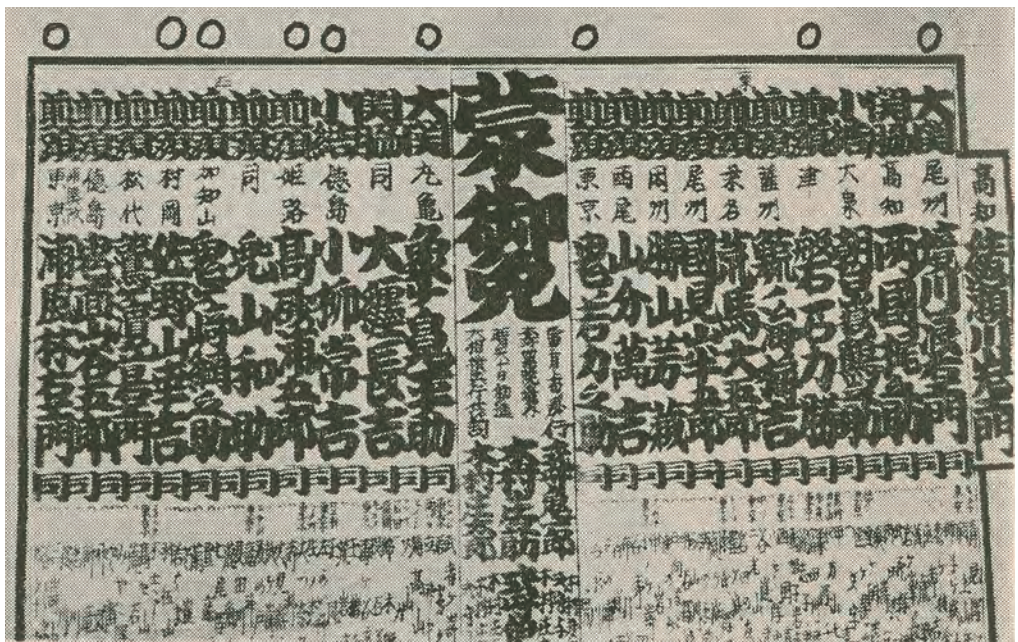
大洲小学校

前頭	前頭	前頭	前頭	前頭
大関	関脇	小結	前頭	前頭
(西方)				
丸亀	同	徳島	姫路	同
象ヶ鼻平助	大纏長吉	小柳常吉	高砂浦五郎	兜山和助
鬼ヶ力之助	山分萬吉	勝山芳蔵	東京	因州
加知山	鬼ヶ崎綱之助			



北方小学校

〔6-2-21〕市川市立小学校の土俵



〔6-2-22〕 明治5年3月場所番付表
〔『千葉県と相撲』〔1972年〕より転載〕

前頭	村岡	佐野山幸吉
前頭	松代	鷲ヶ浜音右衛門
前頭	徳島	鬼面山谷五郎
前頭	浦添改 東京	浦風林右衛門

一八七二年段階では、番付表に横綱は掲載されていないので、大関が最高位であり、境川浪右衛門は、東の正大関という最高位に位置している。6-2-22には、番付と四股名しこなの間の地名が、境川浪右衛門は尾州と記されているが、実は、ここに示されている地名は、力士の出身地ではない。江戸時代、相撲の強い者が大名に「抱え力士」として家臣に取り立てられていた歴史があるが、明治初期は、まだ江戸時代の名残があり、力士は禄を食んでいた旧藩を地名に挙げていたのである。したがって、境川浪右衛門は尾州、つまり尾張藩（名古屋の徳川家）がスポンサーになっていたと理解できる。番付表に名のある二人の力士のうち、太字で記した九人が実際には千葉県出身であり、その割合が高いことに驚く。角界で活躍する力士が多い千葉県では、自然と相撲人気が高かった。

次に千葉県文書館の平成二九年度企画展の図録『房総相撲博覧会』に掲載された「千葉県出身の幕内力士」から二〇世紀に入幕した市川市に関わる力士一名を抽出した。一名の出身

地と入幕から引退年、および昭和以降の力士の初土俵は次のとおりである。

境川浪右衛門（高谷）	一八六七～一八八一年
大蛇潟大五郎（鬼越）	一八九二～一九〇七年
若島権四郎（原木）	一八九六～一九〇七年
稲葉嶽光之助（河原）	一九一六～一九一八年
☆星甲昌男（浦安市）	一九五五～一九六四年
初土俵（一九四二年）	
房錦勝比古（相之川）	一九五七～一九六七年
初土俵（一九五二年）	
旭豪山和泰（中国分）	一九八九～一九九六年
初土俵（一九八四年）	
小城ノ花昭和（大野町）	一九九〇～一九九八年
初土俵（一九八三年）	
小城錦康年（大野町）	一九九三～二〇〇四年
初土俵（一九八七年）	
琴龍宏央（原木）	一九九六～二〇〇五年
初土俵（一九八七年）	
闘牙進（香取）	一九九八～二〇〇六年
初土俵（一九九一年）	

星甲昌男^{ほしかおと}をここに挙げたのは、行徳地区と密接な関係をもつ浦安市当代島の出身であることのほかにもうひとつ理由がある。市川市に長く居住し、作家・評論家として活躍した小島貞二の『千葉県と相撲』（一九七二年）によれば、星甲昌男の所属部屋である井筒部屋は、戦時中から戦後にかけて、中山の法華経寺近くにある法宣院に疎開していたという市川市との縁があるからである。井筒部屋は、代々鹿兒島県出身者で固められていた部屋で、千葉県出身者である星甲の所属は異例であったが、入門には疎開という当時の社会状況が関係していたのかもしれない。

一 一名の力士の活躍時期を一覧に示したものが612123である。戦中から戦後にかけて、星甲昌男と房錦勝比古のふたりの力士が活躍している。星甲は入幕までに時間がかかったが、角界随一といわれる稽古量をこなす努力家であったという。幕内に二六場所所在位し、突っ張り、蹴手繰り^{けたぐ}、叩き込み^{たたこ}を得意とし三八歳まで土俵をつとめた。

南行徳地域・相之川出身の房錦勝比古は、浅黒い肌、スピード感あふれる取り口が持ち味で、「褐色の弾丸」の異名をとった。また、一九六〇年代に一時代を築いた柏戸と大鵬にめっぽう強く、柏鵬^{はくほう}キラ〜とも呼ばれていた。房錦が一九五七年五月に優勝争いに加わった一四日目に双ッ竜を破り、行司であった父・

〔6-2-23〕市川関係力士表 初土俵以降 新入幕後

力士	出身	185	188	191	194	197	200	203	206	209	212	215	218	221	224	227	230	233	236	239	242	245	248	251	254	257	260	263	266	269	272	275	278	281	284	287	290	293	296	299	302	305	308	311	314	317	320	323	326	329	332	335	338	341	344	347	350	353	356	359	362	365	368	371	374	377	380	383	386	389	392	395	398	401	404	407	410	413	416	419	422	425	428	431	434	437	440	443	446	449	452	455	458	461	464	467	470	473	476	479	482	485	488	491	494	497	500	503	506	509	512	515	518	521	524	527	530	533	536	539	542	545	548	551	554	557	560	563	566	569	572	575	578	581	584	587	590	593	596	599	602	605	608	611	614	617	620	623	626	629	632	635	638	641	644	647	650	653	656	659	662	665	668	671	674	677	680	683	686	689	692	695	698	701	704	707	710	713	716	719	722	725	728	731	734	737	740	743	746	749	752	755	758	761	764	767	770	773	776	779	782	785	788	791	794	797	800	803	806	809	812	815	818	821	824	827	830	833	836	839	842	845	848	851	854	857	860	863	866	869	872	875	878	881	884	887	890	893	896	899	902	905	908	911	914	917	920	923	926	929	932	935	938	941	944	947	950	953	956	959	962	965	968	971	974	977	980	983	986	989	992	995	998	1001	1004	1007	1010	1013	1016	1019	1022	1025	1028	1031	1034	1037	1040	1043	1046	1049	1052	1055	1058	1061	1064	1067	1070	1073	1076	1079	1082	1085	1088	1091	1094	1097	1100	1103	1106	1109	1112	1115	1118	1121	1124	1127	1130	1133	1136	1139	1142	1145	1148	1151	1154	1157	1160	1163	1166	1169	1172	1175	1178	1181	1184	1187	1190	1193	1196	1199	1202	1205	1208	1211	1214	1217	1220	1223	1226	1229	1232	1235	1238	1241	1244	1247	1250	1253	1256	1259	1262	1265	1268	1271	1274	1277	1280	1283	1286	1289	1292	1295	1298	1301	1304	1307	1310	1313	1316	1319	1322	1325	1328	1331	1334	1337	1340	1343	1346	1349	1352	1355	1358	1361	1364	1367	1370	1373	1376	1379	1382	1385	1388	1391	1394	1397	1400	1403	1406	1409	1412	1415	1418	1421	1424	1427	1430	1433	1436	1439	1442	1445	1448	1451	1454	1457	1460	1463	1466	1469	1472	1475	1478	1481	1484	1487	1490	1493	1496	1499	1502	1505	1508	1511	1514	1517	1520	1523	1526	1529	1532	1535	1538	1541	1544	1547	1550	1553	1556	1559	1562	1565	1568	1571	1574	1577	1580	1583	1586	1589	1592	1595	1598	1601	1604	1607	1610	1613	1616	1619	1622	1625	1628	1631	1634	1637	1640	1643	1646	1649	1652	1655	1658	1661	1664	1667	1670	1673	1676	1679	1682	1685	1688	1691	1694	1697	1700	1703	1706	1709	1712	1715	1718	1721	1724	1727	1730	1733	1736	1739	1742	1745	1748	1751	1754	1757	1760	1763	1766	1769	1772	1775	1778	1781	1784	1787	1790	1793	1796	1799	1802	1805	1808	1811	1814	1817	1820	1823	1826	1829	1832	1835	1838	1841	1844	1847	1850	1853	1856	1859	1862	1865	1868	1871	1874	1877	1880	1883	1886	1889	1892	1895	1898	1901	1904	1907	1910	1913	1916	1919	1922	1925	1928	1931	1934	1937	1940	1943	1946	1949	1952	1955	1958	1961	1964	1967	1970	1973	1976	1979	1982	1985	1988	1991	1994	1997	2000	2003	2006	2009	2012	2015	2018	2021	2024	2027	2030	2033	2036	2039	2042	2045	2048	2051	2054	2057	2060	2063	2066	2069	2072	2075	2078	2081	2084	2087	2090	2093	2096	2099	2102	2105	2108	2111	2114	2117	2120	2123	2126	2129	2132	2135	2138	2141	2144	2147	2150	2153	2156	2159	2162	2165	2168	2171	2174	2177	2180	2183	2186	2189	2192	2195	2198	2201	2204	2207	2210	2213	2216	2219	2222	2225	2228	2231	2234	2237	2240	2243	2246	2249	2252	2255	2258	2261	2264	2267	2270	2273	2276	2279	2282	2285	2288	2291	2294	2297	2300	2303	2306	2309	2312	2315	2318	2321	2324	2327	2330	2333	2336	2339	2342	2345	2348	2351	2354	2357	2360	2363	2366	2369	2372	2375	2378	2381	2384	2387	2390	2393	2396	2399	2402	2405	2408	2411	2414	2417	2420	2423	2426	2429	2432	2435	2438	2441	2444	2447	2450	2453	2456	2459	2462	2465	2468	2471	2474	2477	2480	2483	2486	2489	2492	2495	2498	2501	2504	2507	2510	2513	2516	2519	2522	2525	2528	2531	2534	2537	2540	2543	2546	2549	2552	2555	2558	2561	2564	2567	2570	2573	2576	2579	2582	2585	2588	2591	2594	2597	2600	2603	2606	2609	2612	2615	2618	2621	2624	2627	2630	2633	2636	2639	2642	2645	2648	2651	2654	2657	2660	2663	2666	2669	2672	2675	2678	2681	2684	2687	2690	2693	2696	2699	2702	2705	2708	2711	2714	2717	2720	2723	2726	2729	2732	2735	2738	2741	2744	2747	2750	2753	2756	2759	2762	2765	2768	2771	2774	2777	2780	2783	2786	2789	2792	2795	2798	2801	2804	2807	2810	2813	2816	2819	2822	2825	2828	2831	2834	2837	2840	2843	2846	2849	2852	2855	2858	2861	2864	2867	2870	2873	2876	2879	2882	2885	2888	2891	2894	2897	2900	2903	2906	2909	2912	2915	2918	2921	2924	2927	2930	2933	2936	2939	2942	2945	2948	2951	2954	2957	2960	2963	2966	2969	2972	2975	2978	2981	2984	2987	2990	2993	2996	2999	3002	3005	3008	3011	3014	3017	3020	3023	3026	3029	3032	3035	3038	3041	3044	3047	3050	3053	3056	3059	3062	3065	3068	3071	3074	3077	3080	3083	3086	3089	3092	3095	3098	3101	3104	3107	3110	3113	3116	3119	3122	3125	3128	3131	3134	3137	3140	3143	3146	3149	3152	3155	3158	3161	3164	3167	3170	3173	3176	3179	3182	3185	3188	3191	3194	3197	3200	3203	3206	3209	3212	3215	3218	3221	3224	3227	3230	3233	3236	3239	3242	3245	3248	3251	3254	3257	3260	3263	3266	3269	3272	3275	3278	3281	3284	3287	3290	3293	3296	3299	3302	3305	3308	3311	3314	3317	3320	3323	3326	3329	3332	3335	3338	3341	3344	3347	3350	3353	3356	3359	3362	3365	3368	3371	3374	3377	3380	3383	3386	3389	3392	3395	3398	3401	3404	3407	3410	3413	3416	3419	3422	3425	3428	3431	3434	3437	3440	3443	3446	3449	3452	3455	3458	3461	3464	3467	3470	3473	3476	3479	3482	3485	3488	3491	3494	3497	3500	3503	3506	3509	3512	3515	3518	3521	3524	3527	3530	3533	3536	3539	3542	3545	3548	3551	3554	3557	3560	3563	3566	3569	3572	3575	3578	3581	3584	3587	3590	3593	3596	3599	3602	3605	3608	3611	3614	3617	3620	3623	3626	3629	3632	3635	3638	3641	3644	3647	3650	3653	3656	3659	3662	3665	3668	3671	3674	3677	3680	3683	3686	3689	3692	3695	3698	3701	3704	3707	3710	3713	3716	3719	3722	3725	3728	3731	3734	3737	3740	3743	3746	3749	3752	3755	3758	3761	3764	3767	3770	3773	3776	3779	3782	3785	3788	3791	3794	3797	3800	3803	3806	3809	3812	3815	3818	3821	3824	3827	3830	3833	3836	3839	3842	3845	3848	3851	3854	3857	3860	3863	3866	3869	3872	3875	3878	3881	3884	3887	3890	3893	3896	3899	3902	3905	3908	3911	3914	3917	3920	3923	3926	3929	3932	3935	3938	3941	3944	3947	3950	3953	3956	3959	3962	3965	3968	3971	3974	3977	3980	3983	3986	3989	3992	3995	3998	4001	4004	4007	4010	4013	4016	4019	4022	4025	4028	4031	4034	4037	4040	4043	4046	4049	4052	4055	4058	4061	4064	4067	4070	4073	4076	4079	4082	4085	4088	4091	4094	4097	4100	4103	4106	4109	4112	4115	4118	4121	4124	4127	4130	4133	4136	4139	4142	4145	4148	4151	4154	4157	4160	4163	4166	4169	4172	4175	4178	4181	4184	4187	4190	4193	4196	4199	4202	4205	4208	4211	4214	4217	4220	4223	4226	4229	4232	4235	4238	4241	4244	4247	4250	4253	4256	4259	4262	4265	4268	4271	4274	4277	4280	4283	4286	4289	4292	4295	4298	4301	4304	4307	4310	4313	4316	4319	4322	4325	4328	4331	4334	4337	4340	4343	4346	4349	4352	43
----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	----



〔6-2-24〕 浦安・行徳有志による化粧まわしを締めた房錦閑
(ベースボール・マガジン社蔵)

花・小城錦の兄弟をはじめ、再び市川市を出身地とする力士たちが土俵をつとめるようになる。市川市で一番新しい小学校として一九九九年に開校した妙典小学校に土俵が設置されていたことから、市川市立の小学校では、土俵がある学校風景が当然の姿になっていたのである。

このように充実した相撲環境のなかで現在でも小学生は相撲に親しみ、市川青年会議所が主催する「わんぱく相撲大会市川場所」にも参加している。市川場所は、公益財団法人日本相撲

という。

一方、相撲環境が充実している小学校と異なり、現在、土俵のある市川市立の中学校はない。力士をめざす子どもは、学校という場所を離れて鍛錬を積んでいくことになる。市川市の学校教育における相撲への姿勢は将来への道筋として充実を図るものではなく、身体を鍛え、礼節を学び、またスポーツとして親しむものとして取り組まれてきたのである。

協会と公益社団法人東京青年会議所が共催している「わんぱく相撲全国大会」の地区予選にもなっており、市川市の小学生が全国大会に出場することも多い。

大柏小学校出身の出羽海昭和親方（元前頭・小城ノ花）は、小学生時代、他のスポーツに親しんでいたが、学校代表としてわんぱく相撲に出場している。市川市史の聞き取り調査において、「行徳の小学校が強くて自分たちはなかなか勝てなかったよ」と語ったが、当時、相撲の専任の指導者がいたわけではなく、小学校ではおおらかな相撲が展開されていた

第3節

心の豊かさを育む

1 まちの縁側

ここまで市川市の文化的な施設や施策についてみてきたが、市川市が「文化都市・市川」と標榜するに足るものは何であろうか。学校や公民館や博物館などの文化施設の、いわゆる「箱物」の建設とは異なる、学問・芸術など、主として精神的活動や、その所産のほどあいといった意味での文化力から、「文化都市・市川」の根拠となりうる材料を考えたとき、そこでの主役は「モノ」ではなく、「人」である。そのような理由から、本節では「人の活動」のひとつとしてボランティアを取り上げる。

市川市にもボランティア活動希望者は多く、担当課である市民部のボランティア・NPO課が把握している団体は、「まちの縁側構想」が提言された二〇〇〇（平成一二）年段階で、約一八〇団体としているものの、同課は実際の数を、その四倍とも五倍とも考えており、全体を把握するのは困難な状況である

としている。

「まちの縁側構想」というのは、市川市におけるボランティア・市民活動を推進するための拠点や仕組みを整備する取り組みのことである。人びとの活動拠点であり、同時に交流の場でもある「まちの縁側」を市川市全域に開設し、「まちの縁側」間の調整を行う機能として「まちの縁側センター」を設置し、ボランティア・市民活動に関心を持つ市民と、市民団体をつないでいくことを目的としている。現在、市川市では八幡と行徳にボランティア・NPO活動センターを開設し各種の活動が行われているが、ここからは、市川市役所の各部署が設立に関わり、また運営にコミットしているいくつかの活動に焦点を当てて述べてみたい。

2 養成講座から誕生した 市川市市民文化サポーター

市川市では、歴史的・文化的資産を活用した文化振興事業について、伝統と特徴を市民に伝え広めていくとともに、次代に引き継いでいくべき重要な取り組みであると位置づけている。その理念に基づき、市川市では市民の芸術振興に向けた施策を多々実施しているが、それらの事業において、ともに活動して

していればだれでも出展できる『街かど美術展』などを企画・実施し、作品の募集や受付、展示レイアウトも行い、美術展の図録制作も担当している。

文芸コースに学んだ受講生からは文学サポーターが生まれ、市川市生涯学習センター内にある市川市文学ミュージアム（二〇一二年九月三日までは文学プラザ。二〇一三年七月より文学ミュージアム）を拠点に活動している。文学サポーターは、市

大きな役割を果たした。このような展示は、これまでに複数回開催されている。

市川市市民文化サポーターは、講座によって文化振興事業を担う市民を養成し、その輪を拡げていくという積極的な施策の成果である。そして、知識と技術と意識を磨いた多くの市民が、市のスタッフとともにその力を発揮することで双方向の生涯学習を実践しているのである。



〔6-3-2〕文学サポーター協働展ポスター（2016年）
（市川市文学ミュージアム蔵）

川市ゆかりの作家や、市川市に関連した文学作品などの調査、文学ミュージアムの企画展開催に伴う調査や来館者への案内、イベントの受付などの活動を行っている。また、資料室の展示コーナーでは、文学ミュージアム所蔵資料の紹介をしている。6-3-2は、文学サポーターが文学ミュージアムのスタッフとともに企画から立ち上げ、資料の調査や展示レイアウトから、広報活動、展示作業や関連イベントまでを運営した協働展「本を彩った画家たち」のポスターである。協働展は文学ミュージアムの所蔵資料を中心に、日本近代文学の復刻本や雑誌の装丁を手がけた画家と作家の交流を取り上げ、所蔵資料の紹介に

〔6-3-3〕 ガーデニングボランティア活動（2017年度）

場所	活動日	登録人数（※2）
行徳駅前広場花壇	第2火曜日・第4土曜日	28
菅野公民館前歩道花壇	第1火曜日・第3土曜日	27
ニッケコルトンプラザ前歩道花壇	第1土曜日・第3火曜日	22
保健センター前歩道花壇	第2水曜日・第4金曜日	10
妙典駅南口花壇	第1水曜日・第3金曜日	6
本八幡駅北口花壇	第2土曜日・第4水曜日	25
桜見公園	第2木曜日・第4木曜日	16
鬼越駅前花壇	第1月曜日・第3月曜日	11
市川駅北口花壇	第1金曜日・第3木曜日	12
市役所前花壇（※1）	第1木曜日・第3水曜日	9

（※1）市庁舎建替え工事により年度途中より休止

（※2）活動人数は個人。ほかに団体の活動参加がある。

また、ひとりで複数箇所で開催している場合も重複してカウントしている。

（まち並み景観整備課資料「平成29年度 ガーデニングボランティア年間活動スケジュール」、「ガーデニングボランティア・花壇整備活動（2017年）」より作成）

3 「ガーデニングシティいちかわ」と ガーデニングボランティア

「ガーデニングシティいちかわ」は、市川市を「住んでみたい」「住みつけたい」と思える魅力ある街にするための街づくりの施策である。

「ガーデニングシティいちかわ」は、街の景観を向上させることが、市川市を住みたい街にしていける重要な要素と考え、住宅地においては住民が、道路や公園や駅前広場など、公共の間では、自治会やNPOが行政と協力して整備に取り組んでいくことが理想であるとしている。

市民と市の協働による景観まちづくりとしては、中山参道地区や行徳寺町周辺地区が著名である。中山参道地区では、これまで住宅や店舗の修景、参道の無電柱化、石畳風の舗装や植栽を実施しており、「寺町としての風情を醸し出す、賑わいと落ち着きのある街なみの形成」をめざしている。また、行徳寺町周辺地区では、親子まち探検、親子行灯（あんどん）工作教室、行灯ライトアップなどの活動を通して、「地域住民が愛着と誇りを持てるような行徳」を意識し、歴史的なまち並み景観を守り育てることをめざしている。

市民に気軽にまちづくりに参加してもらうため、まち並み景



〔6-3-4〕 ガーデニングボランティアの作業風景

観整備課が募集を行い、運営しているのが、市川市ガーデニング・ボランティア（以下、ガーデニングボランティア）である。ガーデニングボランティアは、二〇一三（平成二五）年に創設され、二〇一八年二月十六日現在で個人八六七人、事業者五八件が登録している。要項によれば、ガーデニングボランティアの定義は、「市との協働により花壇又は植栽の維持管理を行うもので、市長の登録を受けたもの」となっている。

6-3-3は区域の一〇か所の花壇における二〇一七年度のガーデニングボランティアの活動を記したものである。それぞれの花壇の活動日の午前には、6-3-4のような揃いのエプロンを身につけたボランティアの人びとが慣れた手つきで花壇の世話をしている姿を見かける。作業は、花苗の植え込み、花殻摘み、草取りなどで市職員と一緒に取り組んでいる。また、花壇整備のほかにも、種から花づくりをし、育てた苗の一部を公共の花壇へ提供するという「協働花づくり」や、市民の庭や事業所の花壇を公開してもらう「オープンガーデン」など、まち並み景観整備課が企画する事業は、市民の参加のもとに行われているものが多い。

景観を整えて、街づくりをしていくことの理由として、市川市のパンフレット「市川市の景観まちづくり」では、街が快適で安全になるとともに、精神的な満足感を得ることができるこ

ホットアート 2000

脚本家『水木洋子』の世界

映画鑑賞会 平成12年8月6日(日) 午後1時開演



太平洋戦争末期、全島が戦場と化した沖縄で、ひめゆり部隊と呼ばれた陸軍病院に配属された乙女たちの知らない青春を描く。

監督 今井正 脚本 水木洋子
主演 津島恵子 岡田英次 (昭和28年 東映作品)

【水木洋子】

水木さんは明治43年東京神田に生まれ、日本女子大国文科を経て、文化学院専攻科演劇部を卒業した。
昭和9年には、菊池寛主催の「戯曲研究所」に参加。
「にぎり」「あにいもうと」「浮雲」「キタとイサム」「おとうと」などヒット映画を次々と生み出し、毎日映画コンクール脚本賞や菊池寛賞を受賞した。
これら名画の創作の場が、昭和22年に移り住んだ市川市八幡の閑静な住宅街に約800㎡の敷地を持つ自宅であった。

日時 平成12年8月6日(日) 午後1時～午後3時30分

会場 生涯学習センター2階 グリーンスタジオ
(先着200人 当日、直接会場にお集まりください)

※ 映画終了後 希望者には水木洋子部の見学会を行います。
映像文化センターより徒歩20分(希望者多数の場合抽選)

参加無料

【水木洋子資料展】
7月29日(土)～8月30日(水) 《施設閉館中》
生涯学習センター 1階中央図書館・3階学びの広場

問い合わせ 市川市文化課 334-1111 内線 2394

[6-3-5]「脚本家『水木洋子』の世界」チラシ
(市川市文学ミュージアム蔵)

と、そして、街に個性が育まれていき、人びとが街に愛着や誇りを持つことができるようになることをあげている。自分たちの街を自分たちで作り、磨いていくことで、そこに住む人びとの価値観があらわれてくる。「さあ始めよう! 景観まちづくり」という声は、着実に市民に届いているようである。

4 呼びかけから始まった

水木洋子市民サポーター

二〇〇四(平成一六)年に市川市名誉市民の称号を贈られた水木洋子に関わって創設されたボランティアに水木洋子市民サポーターの会という組織がある。二〇〇二年に設立され、文化振興課の文学ミュージアムを活動拠点としている。

水木洋子は、女流脚本家の草分けとしても知られ、数々の名作を残した人物である。一九一〇(明治四三)年に東京に生まれ、一九四七(昭和二二)年から市川市八幡に居を構え、二〇〇三(平成一五)年に世を去るまで市川で多くの作品を生みだしていった。

水木洋子は、一九九七年に市川市と「死因贈与契約」を締結し、土地・家屋、シナリオ原稿・書籍、著作権などを将来、市川市に寄贈することとした。この経緯について、『水木洋子市民サポーター活動の記録(一)』に当時の文化課長が



〔6-3-6〕 水木洋子邸

次のように記している。

昭和五〇年代まで精力的な創作を続け、一九八一（昭和五六）年には、紫綬褒章を受賞します。しかし、二年後に母ゑいさんを亡くしてから、執筆活動から遠のいたようです。やがて、老人性の病を患い、一九九三（平成五）年からは、柏井にある特別養護老人ホーム清山荘へ入所し、現在に到っています。この間、一九九六（平成八）年に後見人が選任され、後見人を通じて、所有財産の寄付の申し出がありました。これは、水木さんがお元気だったころ、「市には大変お世話になっている。老後もお世話になるので、財産を市に寄付したい」と言っていたことによるものです。

その年のうちに、水木洋子の自筆原稿や寄稿掲載雑誌など約五〇箱の資料が市川市生涯学習センターの書庫に移管されている。死因贈与契約は遺言書により財産を遺贈するのとは異なり、受贈者の承諾が必要となる契約である。市川市は契約を交わすことにより財産を相続するが、それは同時に水木洋子が遺した文化資産を保管・活用し、市民に還元する義務を負うことを約束したのである。

市川市は、二〇〇〇年夏には、企画展「脚本家『水木洋子』

の世界」を開催し、映画鑑賞会（「ひめゆりの塔」）、水木邸見学会とともに、「水木洋子資料展」を生涯学習センターで実施した。6・3・5「水木洋子資料展」では、映画「ひめゆりの塔」関連資料を中心に、移管された資料を市民に公開した。この企画を機に市川市はアンケートを実施し、資料整理などの手伝いをお願いできないかという呼びかけを行っている。これが水木洋子市民サポーターの会誕生への最初の一步であった。

翌二〇〇一年一月には、市川市からの呼びかけに応じた市民ら一四名が、白手袋とマスクを持参して、生涯学習センターに集まった。水木洋子市民サポーターの活動報告書『水木洋子とともに 市民サポーターの会一〇年のあゆみ二〇〇一―二〇一二』によれば、「初めてM三階の書庫に入る。積み上げられたダンボール箱の山をくずして開梱、ホコリを払い、汚れをぬぐって図書・雑誌類の分類」をしたとあり、三日間、延べ三九名によって作業は行われた。その後も、資料整理や水木邸の清掃・管理とボランティアは続いた。二〇〇二年、当時の文化課から、サポーター組織化の提案がなされ、数度の検討会ののち、五月十五日に水木洋子市民サポーターの会設立総会が開かれた。同書に掲載されている「入会を呼びかける趣意書」には、同会が設立される経緯とその思いが記されている。

二〇〇〇（平成一二）年八月、市川市により「シナリオ作家／水木洋子の世界展」が開催され、市の呼びかけにに応じた市民が、水木洋子市民サポーターとして、資料整理や企画事業のサポートを開始しました。資料整理や水木邸の管理などを進めるなかで、水木さんのさらなる魅力を再確認し、行政と連携しながら、水木さんについての調査・研究・普及活動を行い、その業績を広く顕彰し、市川の文化振興ならびに脚本文化の振興に寄与することを目的に、二〇〇二年五月十五日に「水木洋子市民サポーターの会」を設立しました。

ここに記されているのは、ボランティア活動を行うなかで、文化振興の一助となろうという意識の覚醒である。市と連携して生まれた一滴の雫は、個人から団体へ、団体から地域へ、そして行政の執行機関である市川市をも成熟させていくという大河の流れへの道筋を描いているかのようである。

水木洋子市民サポーターの会は、図書・雑誌目録の作成、書簡の分類整理、和服目録作成と多様な資料整理を行ってきた。現在も資料整理や映画の上映、講演会、また、脚本家・水木洋子邸公開日に来訪者を案内するなど、活動は続いている。



〔6-3-7〕リサイクルブック市の準備風景（2018年）

5 連綿と活動を続ける市川図書館友の会

次に図書館でのボランティア活動をみてみよう。一九九四（平成六）年九月に、市川市の図書館でのボランティア活動を通じて、図書館と図書館員を応援し、人と人との触れ合いを目的とした市川図書館友の会が発足した。中央図書館を活動の拠点としており、会の目的に賛同することが友の会への入会の資格と会則には記されている。

今日の図書館の現状や課題を把握・分析し、生涯学習社会における図書館の在り方について調査・検討を行う文部科学省の「これからの図書館の在り方検討協力者会議」の第五回会議（二〇〇五年一月）において、市川図書館友の会の押樋良樹おとよりょうき初代会長は、市川図書館友の会の活動に対するヒアリングで次のように述べている。

我々が図書館を応援することを通して、周囲に図書館がいかにすばらしく、図書館が面白いところかをPRすることができ、我々も図書館の仕事を覚えることができる。視察に来られた方に不思議な顔をされることが多いが、どこから圧力がなく、予算も貰わずに自主的に運営をしている。図書館側からは、手伝ってもらって助かった、友の会は手

伝って楽しかったという両方の利点がなくては活動が続かないと思う。(略)活動を始めるきっかけは、図書館からの働きかけが必要と思うが、ボランティアの活用という言葉を使っているわけではない。住民の意識は確実に高まっており、図書館側が門戸が開かれれば応援団が増える。その活動をどのように自主的に運営していくかが課題であるが、そのためには軸になる人材が必要である。図書館から管理・指導するという視点で、ボランティアを集めないで欲しい。

市川図書館友の会の活動は、図書館(市)との上下関係ではなく、それぞれの立場を尊重しながら、自主的に行われていることがわかり、ボランティアと市川市との関係性が、発展につながるかどうかの大事なキーであることを示唆している。

二〇一六年四月一日現在、会員数は九四人を数え、図書館講座の開催、リサイクルブック市の運営と募金活動、図書館見学会、夏休み体験ボランティア講座などを実施している。しかし、会の活動の根幹は特別なイベント開催時ではなく、むしろ日々の活動のなかにあるといえよう。

市川図書館友の会は、日常的な活動として、返却された本の配架と書棚の整理作業を担当するアレンジ部、レファレンス作

業室での書庫出納と本の修理を担当するレファ・サポート部、各種案内やバックヤードツアーを実施するインフォメーション部、会報を発行する広報部、友の会の受付業務を行う総務部という五つの部で構成されている。二〇一五年の活動状況として、アレンジ部は、二九三日に延べ一七〇人が活動しており、一日に換算すると平均五・八人の応援となる。また、レファ・サポート部も一日あたり三・八時間、月平均二五人が活動している。私たちが図書館で閲覧・貸与のサービスを受けるなかで市川図書館友の会が重要な役割を担っていることがわかる。

6 様々な形で参加する博物館ボランティア

第1節で記した市川市立の登録博物館(考古博物館・歴史博物館・自然博物館)にも、それぞれ市民がボランティアとして関わっている。

自然博物館には、ボランティアの登録制度はないが、機会があるごとに広報で「名札つけ」「湿地整備(草刈)」などのボランティアを募集している。ほぼ毎月実施しているので、自然博物館の行事のようになっており、ボランティアの募集を楽しみにしている市民も多いという。一方、考古博物館と歴史博物館には、博物館ボランティアという組織がある。両博物館がそれ



市の施設は駐車場が狭いため、
車で来場はご遠慮ください

●植物の名前を調べる会
対象Ⅱ小・中学生。日時Ⅱ8月20日(金) 21日(土)午後1時～4時30分。内容Ⅱ植物標本の名前を社会教育指導員と一緒に調べます。申し込み不要、当日標本をもって同館へ。

●柏井散策会 日時Ⅱ8月21日(土)午後1時30分～3時。集合場所Ⅱ柏井青少年の森管理事務所前広場。内容Ⅱ市内で一番大きな雑木林を散策しながら四季の自然を楽しむ。

●自然博物館
〒272-0801 大町2-8-4
☎(0477)2680477

●曾谷公民館
〒272-0832 曾谷8-25-15
☎(0477)268071

●フィールドミュージアム
野外博物館 解説員養成講座 市内の各地区を学習し、実際に現地を案内することができるボランティアを養成する講座。▽A班(大野方面) 9月4日(土)、18日(土)午後2時～4時(18日は踏査) ▽B班(行徳方面) 10月2日(土)、16日(土)午後2時～4時(16日は踏査)。いずれも歴史博物館(踏査は現地)。内容Ⅱ大野地区(中世)・行徳地区(近世)。定員ⅡA・B班各10人。申し込みⅡ8月15日(日)午前9時から電話で同館へ。

●歴史博物館
〒272-0837 堀之内2-27-11
☎(0477)3660501

申し込み不要、当日直接集合場所へ(はじめて参加する場合は事前に同館へお問い合わせ下さい)。
●名前をしらべる会 日時Ⅱ8月22日(日)午後1時～3時30分。会場Ⅱ市民会館。内容Ⅱ植物・昆虫・貝・岩石などの標本を専門の先生が名前を調べます。申し込み不要、当日標本をもって直接会場へ。

〔6-3-8〕 フィールドミュージアム解説員養成講座の募集記事
(『広報いちかわ』862号、1999年8月14日付)

どれ運営に携わっているが、両方に参加している市民もいる。ここでは歴史博物館のボランティアについてみてみよう。

歴史博物館ボランティアは、博物館で実施する多くの行事に参加し、様々なシーンでサポートを務めており、二〇一七(平成二九)年現在、一九人が登録している。

博物館ボランティア活動の歴史は、一九九九年に遡る。社会において生涯学習が意識されるなか、歴史博物館では、「博物館ボランティア(フィールドミュージアム解説員)養成講座」と銘打って、市内の史跡を案内し、歴史をガイドできる人材を養成する講座を開催した。6-3-8は、『広報いちかわ』(八六二号)に掲載された講座の受講生募集の記事である。そこにも記されているように、A班は大野方面で中世を、B班は行徳方面で近世を、とあらかじめ地区と時代は決定していた。この講座への応募は少なかったが、いずれの班も養成講座は開講され、「中世大野の歴史と史跡」「近世行徳の歴史と史跡」というテーマのもと、受講者は学芸員による講義と実地踏査を履修し、かつ自己研修を行った。この養成講座の特徴は、修了した受講者に対し、歴史博物館が「市内史跡めぐり」の講師を委嘱するというフィールドバックを取り入れた事業だったことである。実際に受講者が講師となり、「中世大野の歴史と史跡」は二〇〇〇年三月に、「近世行徳の歴史と史跡」は二〇〇〇年十一月に



〔6-3-9〕 わらぞうり体験学習
(市立市川歴史博物館蔵)

市民を引率して史跡めぐりを実施している。

この新たな試みに対し、歴史博物館では、「昨今、『案内人』養成講座と題した講座をいくつか耳にするが、多様な情報と資料、そして人的資源を蓄積し、かつ地域に密着した地域博物館こそ主催するにふさわしい講座である。」（『平成一一年度 市立市川歴史博物館年報』）という感触を得て、続く年度もボランティア養成講座を企画し、民俗系統の「わら細工指導員養成講座」が実施された。受講者は座学と自習を三日間にわたり履修し、夏休みの小学生対象の体験学習「親子でチャレンジ！わらぞうり作り」の指導に当たった。わらぞうりを作る体験学習は、この数年前にも実施していたが、学芸員のみで多くの受講生に対応することがかなり困難であったことから、その後の開催を控えていたという経緯があった。わらぞうり作りは久しぶりの開催であったが、講座の修了生たちの指導への参加により、盛会であったという。6-3-19

その後、博物館ボランティアは転換期を迎える。『平成二二年度 市立市川歴史博物館館報』には、次のように記されている。

これまで様々な機会を捉えてボランティアの養成を進めてきたが、活動の中心はフェスティバル等の一過性の行事へ

〔6-3-10〕 歴史博物館でのボランティア活動（2010年度）

ボランティア養成講座

講座名	回数	参加者
ちょっと昔の手作りおもちゃ	2	15
昔のくらし体験	26	49

ボランティア活動回数（63回）

行 事	参加人数
わらざうり	41
体験学習	15
紋切り	51
その他	27
合 計	134

（『平成22年度 市立市川歴史博物館館報』より作成）

の参加が主なものであった。そこで、さらに恒常的な活動として土・日の午後に行う「紋切りあそび」や学校団体体験「昔のくらしと道具を探そう」への参加を促し、ボランティアの持てる力を十分発揮できる機会を設定するとともに、事業のより一層の充実を図るようにした。

小学校による博物館での体験学習の増加や、週末の企画をよ

り充実させることをめざし、歴史博物館では博物館ボランティアとの積極的な連携を図ることにしたのである。6-3-10は二〇一〇年度の博物館ボランティアの活動実績を表したものが、この年には、「ちょっと昔の手作りおもちゃ」指導員、および「昔のくらし体験」指導員の養成講座を実施し、修了した受講生がボランティアとして博物館行事での指導や補助を行っている。

その後も活動は継続しており、博物館ボランティアの協力のもと、様々なイベントや講座を充実させることが可能になった。その結果、歴史博物館も、平日の業務のなかで、二〇一五年度には、三校三一一五人の小学生向け体験学習を受け入れることもできるようになり、歴史博物館は、学校教育や社会教育の活性化に今まで以上に大きな役割を果たせるようになった。また、生涯学習としての充実に加え、歴史博物館での活動によって、社会との積極的な関わりを実感しているボランティア参加者も多く、歴史に興味を持つ市民が多い市川市において、ボランティアとのより良い関係性の形を模索してきた歴史博物館がもたらした成果と考えてよいだろう。

ここまで述べてきたボランティア、サポーターなどの活動は、市川市役所の各部署がその設立になんらかの形で関わってきたものであるが、これらのボランティア、サポーターの活動から

番号	団体名	納税者の 届出人数	納税者の 届出金額	地域ポイント の金額	合計金額
66	特定非営利活動法人 地域のたすけあい市川ユエアイ協会	128	146,303	6,125	152,428
67	高齢者支援「雀の会」	73	69,242	100	69,342
68	特定非営利活動法人 まつぱくりの会	57	69,932	280	70,212
69	グリーンハーモニック市川	22	35,970	100	36,070
70	発達に遅れのある子の保育・療育支援にじの会	204	173,586	1,140	174,726
71	特定非営利活動法人 生活困窮・ホームレス自立支援 ガンバの会	328	448,632	3,985	452,617
72	市川メンズ家事クラブ	42	84,678	650	85,328
73	特定非営利活動法人 生きがいと助けあいS S U市川	82	204,220	390	204,610
74	ISG市川スポーツガーデン国府台	123	117,233	66	117,299
75	曾谷縄文伝承の会	52	49,338	5,500	54,838
76	ほかから杯バレーボール会	93	257,313	590	257,903
77	市川市少年野球リーグ	602	722,679	3,580	726,259
78	特定非営利活動法人 行徳野鳥観察舎友の会	148	138,374	1,740	140,114
79	特定非営利活動法人 行徳いきいき花の会	103	122,361	510	122,871
80	すがの会	187	298,227	2,606	300,833
81	傾聴ボランティアサークル「うさぎの耳」	83	72,143	450	72,593
82	市川ラグビー少年団 りとるキング	89	239,114	600	239,714
83	Natural Eco-Life Support (N E S) -自然環境にやさしい活動を広める会	24	20,526	90	20,616
84	老後を安心して健やかに暮らす会	60	46,282	10	46,292
85	なのはな「親業の会」	21	18,675	400	19,075
86	トゥインクルクラブ	31	48,316	120	48,436
87	クリーン グリーンいちかわ	93	133,444	0	133,444
88	特定非営利活動法人 市川市ボランティア協会	188	185,656	3,090	188,746
89	戦争はいやだ！市川市民の会	109	96,944	1,200	98,144
90	いちかわエフエム・放送ボランティア	73	99,217	760	99,977
91	行徳相祭會	37	88,595	164	88,759
92	特定非営利活動法人 フッチ・スポーツ・クラブ	64	150,832	0	150,832
93	ASB	14	13,762	0	13,762
94	行徳少年野球連盟	350	470,902	720	471,622
95	塩浜ふれあいの会	91	98,185	10	98,195
96	手をつなごうママの会	33	38,048	0	38,048
97	市川市剣道連盟 市川中央支部	159	343,658	669	344,327
99	特定非営利活動法人 市川子ども文化ステーション	242	452,705	5,266	457,971
100	国分川鯉のぼり実行委員会	224	229,006	140	229,146
101	市川住宅リフォーム相談協議会	16	24,216	230	24,446
102	平和が好きin市川市民の会	56	59,023	0	59,023
103	行徳郷土文化懇話会	56	117,119	340	117,459
104	特定非営利活動法人 いちかわ地球市民会議	38	68,969	770	69,739
105	多文化共生市民の会	29	190,075	0	190,075
106	市川手をつなごう親の会	205	236,306	1,460	237,766
107	特定非営利活動法人 親そだちネットワーク ビジー・ビー	73	127,277	56	127,333
108	まちのすみかの会市川支部	4	1,746	200	1,946
109	風の会	31	47,795	0	47,795
110	いちかわ自然天文教育フォーラム567	28	56,452	780	57,232
111	こころのケア コスモス	38	31,478	550	32,028
112	NPO法人 小学生モンテッソーリ・スクール	27	64,397	0	64,397
113	柏井剣志会	63	90,309	0	90,309
114	市川民謡の会	42	31,355	0	31,355
115	特定非営利活動法人 寺子屋	112	127,219	780	127,999
116	特定非営利活動法人 たてはなの会	17	25,017	0	25,017
117	食ボランティア かすみ草	39	46,650	1,862	48,512
118	いちかわ市民ミュージカル実行委員会	86	108,863	929	109,792
119	鼓由	44	28,618	0	28,618
120	市川でよい芝居をみる会	57	39,052	673	39,725
121	“ふれあい昼食会 すずめ茶屋”	57	68,806	0	68,806
122	市川をきれいにし隊	74	146,346	1,310	147,656
123	市川市WHO健康都市和洋会	41	70,441	1,814	72,255
124	芙蓉会（市川市母子寡婦福祉会）	105	125,849	380	126,229
125	アシカちゃんクラブ	156	251,631	1,120	252,751
126	NPO法人 市民後見センターちば	23	14,891	0	14,891
127	働く障害者団体協議会	145	107,356	1,010	108,366
	計	11,365	15,772,223	131,759	15,903,982

(ボランティア・NPO課資料「平成25年度 1%支援制度支援金確定額一覧」より作成)

第3節 心の豊かさを育む

〔6-3-11〕 平成25年度 1%支援制度支援金届出額一覧

番号	団体名	納税者の 届出人数	納税者の 届出金額	地域ポイント の金額	合計金額
1	フットベースボールを育てる会	172	233,655	1,580	235,235
2	市川市マンション管理組合連絡協議会	50	49,918	290	50,208
3	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ市川拠点「ナルク市川」	121	111,552	1,404	112,956
4	行徳てらまち会	76	137,150	925	138,075
5	元気！市川会	381	684,202	1,640	685,842
6	東部マンドリーノ	59	35,643	2,757	38,400
7	重度障害者団体「あじさいの会」	218	186,022	970	186,992
8	鬼越ふるさと会	68	106,951	510	107,461
9	生涯大学校市川校友会	76	76,153	760	76,913
10	NPO法人 住まいのサポートセンター	22	47,138	0	47,138
12	ラーラ・マンドリンクラブ	82	98,470	520	98,990
13	特定非営利活動法人 市川市ユネスコ協会	68	77,911	420	78,331
14	八幡雛子保存会	79	140,396	2,714	143,110
15	傾聴ボランティア「赤とんぼ」	103	120,546	918	121,464
16	市川演芸ボランティアグループ	47	22,246	0	22,246
17	心の健康を守る会家族会 松の木会	74	83,489	480	83,969
18	いちかわ歩こう会	105	115,966	4,545	120,511
19	ウエスタン・マジッククラブ市川	72	107,590	144	107,734
20	心のふれあいボランティア「フレンズ」	151	182,543	1,653	184,196
21	「げんき会」(市川失語症友の会)	88	149,246	290	149,536
22	いちかわ大野・れんげプロジェクト	48	66,150	0	66,150
23	NPO法人 日本和運動開発協会	62	77,847	265	78,112
24	じゅんさい池 健歩・健走クラブ	32	80,917	1,010	81,927
25	視覚障害者家庭生活研究会	111	101,861	1,900	103,761
26	オカリナアンサンブル ヴェント	38	37,944	470	38,414
27	宮久保三味クラブ	46	83,034	0	83,034
28	市川子どもの外遊びの会	71	63,506	1,800	65,306
29	シルバーボランティアくすの木会	60	61,607	510	62,117
30	市川ウクレレクラブ(曾谷)	39	48,368	20	48,388
31	緑のみずがき隊	57	51,454	1,620	53,074
32	わんぱくの森の会	66	51,407	1,770	53,177
33	いくじネットいちかわ	39	38,041	80	38,121
34	楽譜点訳の会「ボコ」	61	90,351	540	90,891
35	北国分駅周辺を日本一良くする会	97	228,992	1,400	230,392
36	市川ジュニアBリーグ	673	916,373	1,720	918,093
37	着物リメイク研究会	31	101,430	0	101,430
38	特定非営利活動法人 行徳ITV	28	36,352	380	36,732
39	住み良い街を作る会	62	96,649	700	97,349
40	クリオネ	45	89,862	1,031	90,893
41	ガールスカウト千葉県 第83団	21	21,177	3,710	24,887
42	認定NPO法人 シャリ	54	81,000	120	81,120
43	手の会(地域の支えあい)	98	157,149	0	157,149
44	市川の空気を調べる会	64	51,708	110	51,818
45	市川写真家協会	79	111,719	1,120	112,839
46	市川市納税貯蓄組合連合会	22	58,850	0	58,850
47	万葉の里 真間史蹟保存会	72	100,774	690	101,464
48	いちかわ音楽療法の会	40	51,293	1,170	52,463
49	さかなちゃんクラブ	144	218,079	580	218,659
50	Re-いちかわ	96	77,106	6,069	83,175
52	特定非営利活動法人 G2プロジェクト	31	358,473	130	358,603
53	NPO法人 歌のボランティア「いちかわシャンテ	118	135,167	1,710	136,877
54	プリンカデラ小さな音楽会	17	25,913	0	25,913
55	チーム ピース チャレンジャー	64	85,455	100	85,555
56	MOA食育ネットワーク千葉・ハビネスクラブ	34	35,822	1,869	37,691
57	特定非営利活動法人 ゆたか	15	7,564	0	7,564
58	なのはな奉仕会	115	105,605	5,156	110,761
59	まちづくり家づくり Cafe Ichikawa	39	79,485	990	80,475
60	アンサンブル市川	103	124,819	1,090	125,909
61	子育て応援メッセ実行委員会	64	86,598	10	86,608
62	Save Child 市川	27	36,673	733	37,406
63	市川なのはな会	112	266,852	40	266,892
64	特定非営利活動法人 「アート・空の会」	16	16,961	0	16,961
65	点訳ビーアイ	74	72,895	500	73,395

見えるのは、市川市と市民が目標を共有し、ともに活動しているという姿である。それは「協働」ということばで表現できるであろう。何より注目したいのは、市川市における協働の数々が特定のイベントだけに行われるのではなく、日常的に展開されていることである。ここに、ひととき大きな意義を見い出すことができるのである。

7 1%支援制度

ここまで述べてきたボランティア、サポーター活動は、そのスタート時点で市川市など行政との関係があったが、活動の基盤となる団体の設立に行政が関わることなく、市民の自主的な活動の中から生まれた団体はさらに多く、活動も多岐にわたっている。その多様な活動を繰り広げている多くの団体の活動費を助成するという財政面で応援しようとした施策が1%支援制度である。

1%支援制度は、二〇〇四年十二月市議会定例会で可決された「市川市納税者等が選択する市民活動団体への支援に関する条例」に基づく制度で、地域づくりや青少年育成などの一翼を担うボランティア団体やNPOなどの活動に対して、個人市民税納税者等が支援したい団体を選び、個人市民税額の1%相当

額等（団体の事業費の二分の一が上限）を支援できるとするものである。二〇〇七年度からは、納税者は支援する団体を三団体まで届出できるようになり、また市川市への納税者でなくとも、市川市でのボランティア活動やエコロジー活動をすることで得られる地域ポイントにより届出ができるようにするなど、制度を柔軟にした。1%支援制度は市民活動団体の活動を支援し、促進していくことを目的にし、同時に納税に対する意欲を高めるという側面も持つ市川市の新たな試みだった。1%支援制度は、自らは活動できなくとも、活動に関心を持ち、応援の気持ちを寄せるものであって、これもまた協働の一形態であるといえよう。

61311は二〇一三（平成二五）年度の1%支援制度に対する届出の一覧である。交付が決定された一二七団体に、延べ一万一三六五人の納税者がおよそ一五七七万円の届出をしており、地域ポイントでも一三万一七五九ポイントが寄せられている。1%支援制度は他自治体に先駆けて二〇〇五年度に市川市が最初に採用し、全国的に知れ渡った施策でもある。日本における市民活動支援制度としては、市川市が嚆矢となるわけだが、全国初であるということより、そのような制度が実施されるだけの基盤（要素）があったことがまず重要なことである。

その後、支援団体数を拡大するなどの動きもあったが、1%

支援制度は二〇一五年度で終了し、二〇一六年度からはいちかわ市民活動サポート制度として新たな支援がスタートしている。

二〇〇四年三月に策定された「市川市都市計画マスタープラン」には、都市づくりの目標として五つの項目があげられているが、その最後に「市民・事業者、行政の協働によるまちづくり」と記されている。そして、まちづくりの推進方策として、行政は、「まちの状況や情報の共有と相互理解を深めるために、市民参加の機会づくりや場づくりを推進し、市民が主役のまちづくり体制を整えます」とし、「将来都市像の実現を目指して、市民・事業者と行政が適正な役割分担のもとに、互いに協力して街づくりを進めます」（市川市都市計画マスタープラン）としている。それが、市川市で強く発揮されてきた「協働」という取組みなのである。

協働という新しいまちづくりの取組みのなかで、毎日のように各所で繰り広げられる市民活動を可能にしているのは、市民のボランティア（自主的に申し出る、提供する）の意識の高さであり、これこそ市川市の真の文化力の高さであるといえる。そのような市民の様々な活動の拠点や基盤となり、市民活動を側面から支えるものとして、行政の協働としての役割がある。展示や発表をする文化会館やスタジオ、知識の取得や感性の豊かさを育む図書館など文化施設を充実させることは、市民の文

化力を高めていく大きなチカラとなろう。そして、そのバックヤードとして、資料の分析や検討を行う博物館などにおける知の蓄積が重要な役割を果たすことは言うまでもない。

第一章で述べた「WHO憲章の精神を尊重した『健康都市いちかわ』宣言」（二〇〇四年）に謳^{うた}われているように、市川市は身体のみならず、心の健康、そして環境の健康をめざしている。その背景には、単に物質的な豊かさのみを求めるのではなく、心と生活にとって快適な環境を求めるといった市民の価値観があった。その上に展開された市民の活動こそが市川市を文化都市と標榜できる最大の根拠なのである。